

2. 医療・健康面について

(1) 運動習慣

◆継続的に運動をしている人は3割

(全員の方に)

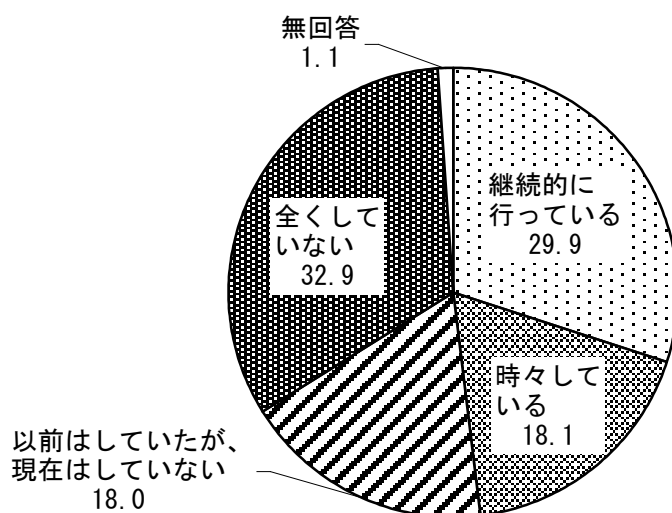
問8. あなたは、1回30分以上の連続した運動を週1～2回以上行っていますか。

(○は1つ)

〈図2-1〉全体

回答者数 568人

単位：%



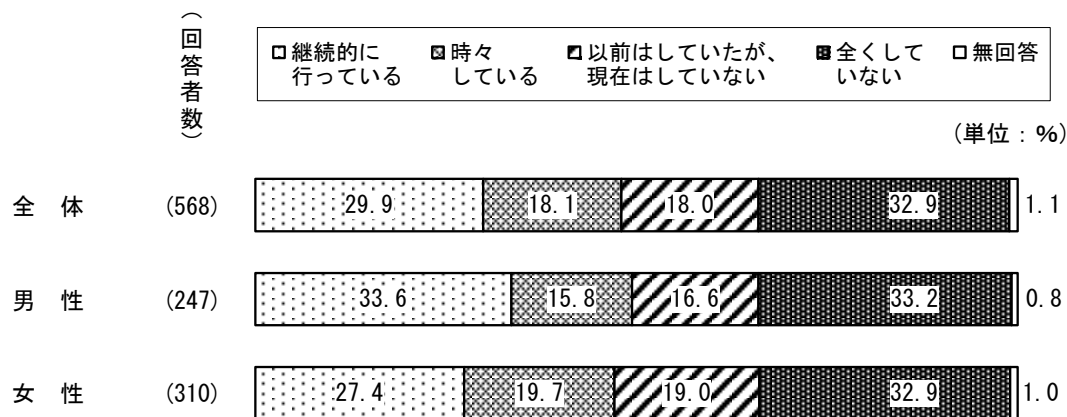
1回30分以上の連続した運動を行っているかたずねたところ、「継続的に行っている」と答えた人は29.9%、「時々している」と答えた人は18.1%となっており、この両者を合わせた“運動している”は5割弱となっている。また、「以前はしていたが、現在はしていない」と答えた人は18.0%、「全くしていない」と答えた人は32.9%となっている。(図2-1)

性別に見ると、「継続的に行っている」と答えた人は男性(33.6%)が女性(27.4%)より6.2ポイント高くなっている。(図2-2)

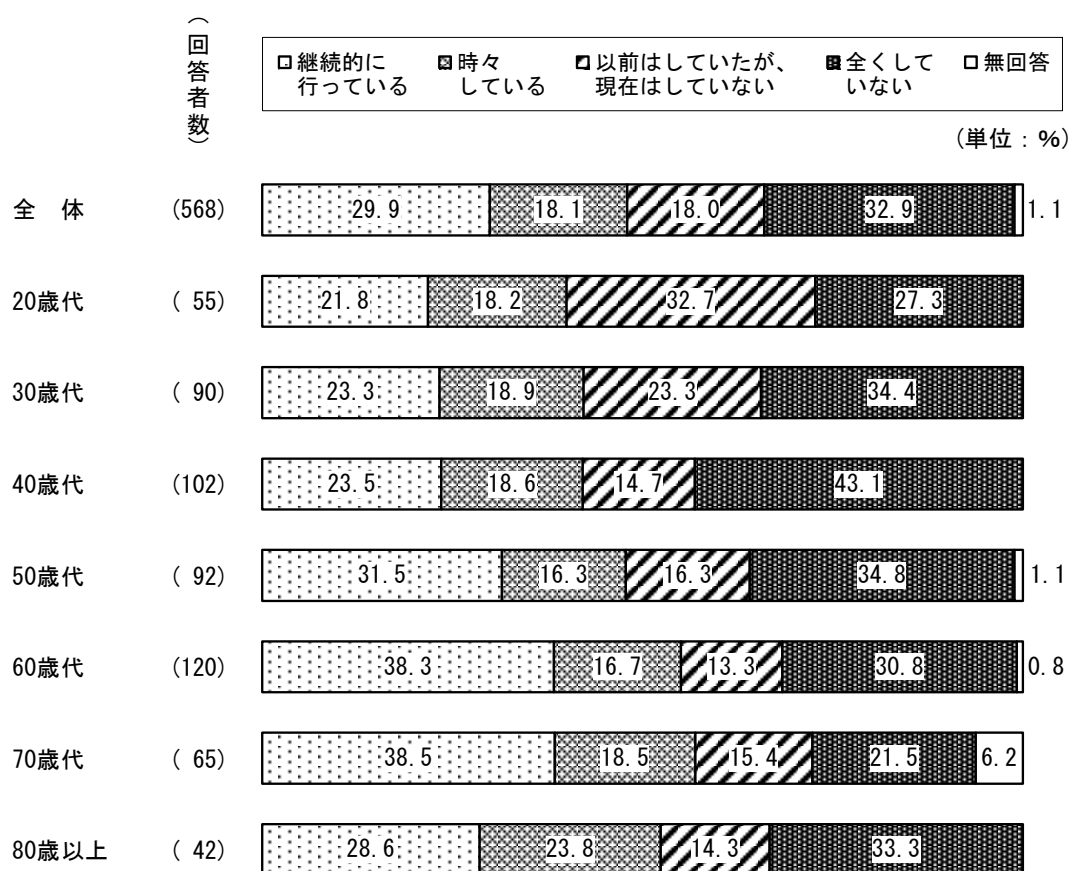
年齢別に見ると、“運動している”人は60歳以上では半数以上となっている。一方、「以前はしていたが、現在はしていない」と答えた人は20歳代で32.7%、「全くしていない」と答えた人は40歳代で43.1%となっている。(図2-3)

前回調査の結果と比較すると、「時々している」と答えた人の割合が9.3ポイント減少している。(今回調査18.1%、前回調査27.4%) (図2-4)

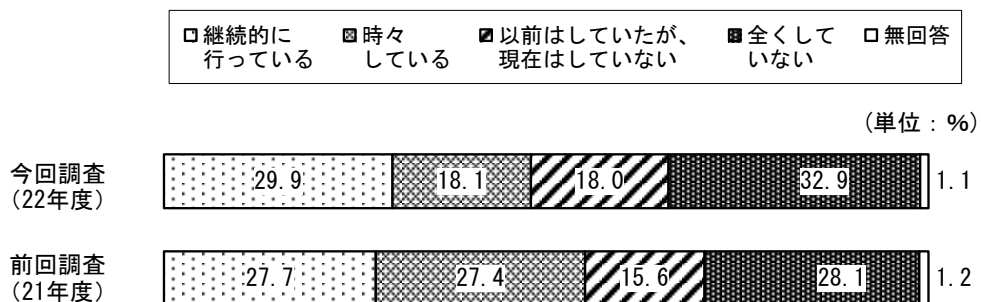
〈図 2-2〉 性別



〈図 2-3〉 年齢別



〈図 2-4〉 前年度との比較



(2) 健康診断の受診頻度

◆毎年受診している人が7割強

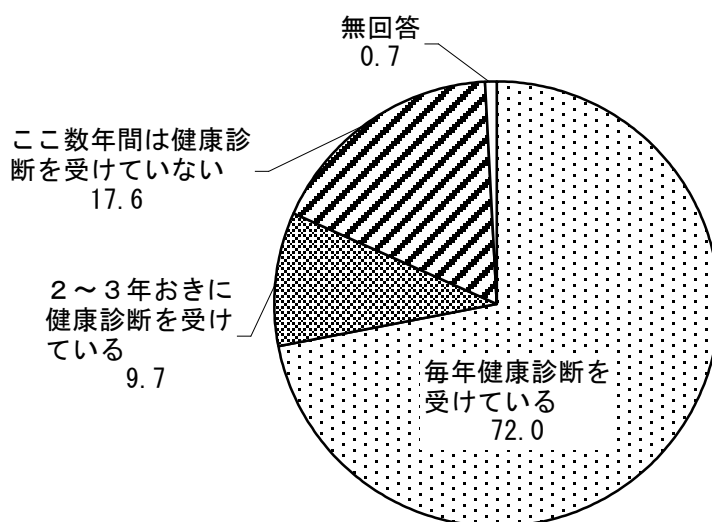
(全員の方に)

問9. あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。(○は1つ)

〈図2-5〉全体

回答者数 568人

単位：%



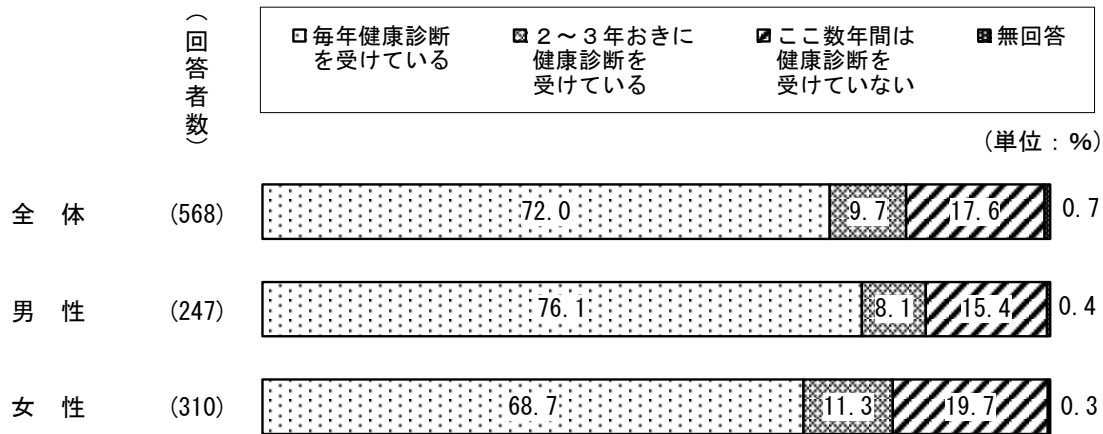
健康診断の受診頻度については、「毎年健康診断を受けている」と答えた人が72.0%を占めている。「2～3年おきに健康診断を受けている」と答えた人は9.7%、「ここ数年間は健康診断を受けていない」と答えた人は17.6%となっている。(図2-5)

性別に見ると、「毎年健康診断を受けている」と答えた人は男性(76.1%)が女性(68.7%)より7.4ポイント高くなっている。(図2-6)

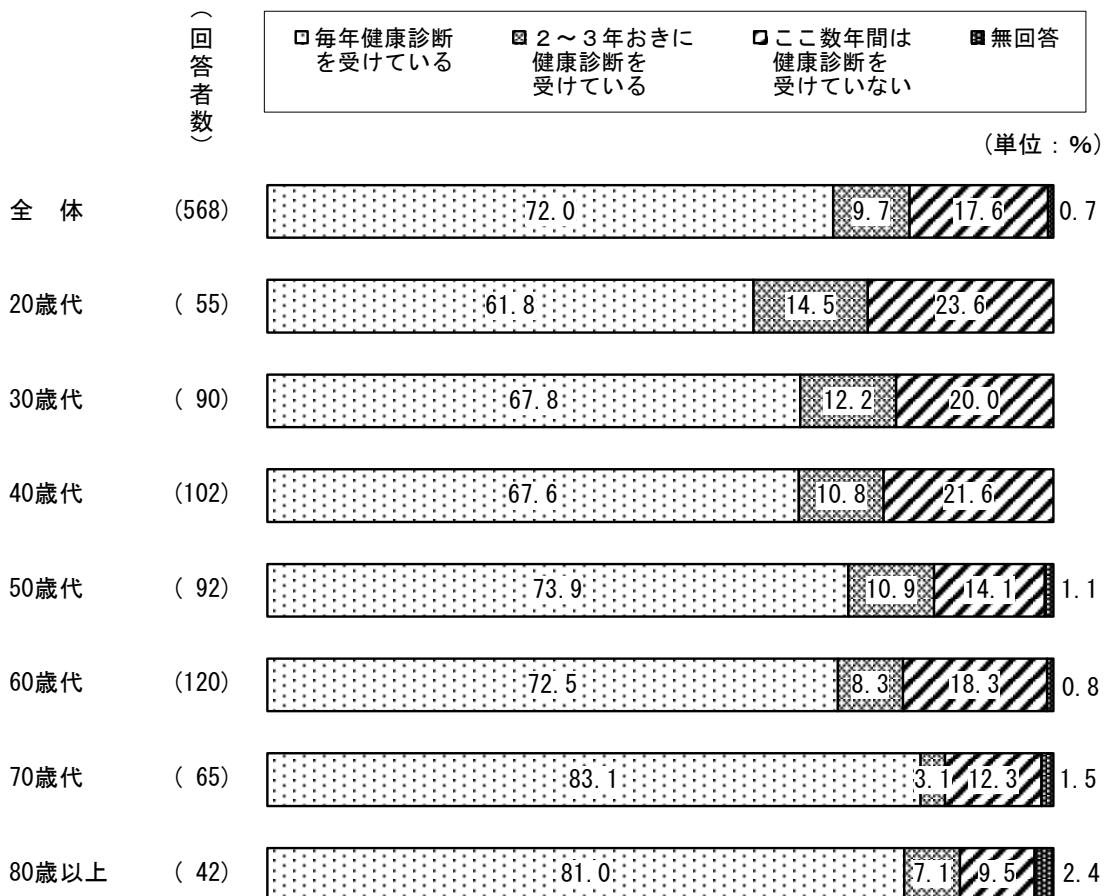
年齢別に見ると、「毎年健康診断を受けている」と答えた人は70歳代以上で8割以上と高くなっている。一方、「ここ数年間は健康診断を受けていない」と答えた人は20～40歳代で2割以上となっている。(図2-7)

職業別に見ると、「毎年健康診断を受けている」と答えた人は正規の職員・従業員で86.4%と高くなっている。一方、「ここ数年間は健康診断を受けていない」と答えた人は自営業主・家族従業者、労働者派遣事務所の派遣社員で約27%となっている。(図2-8)

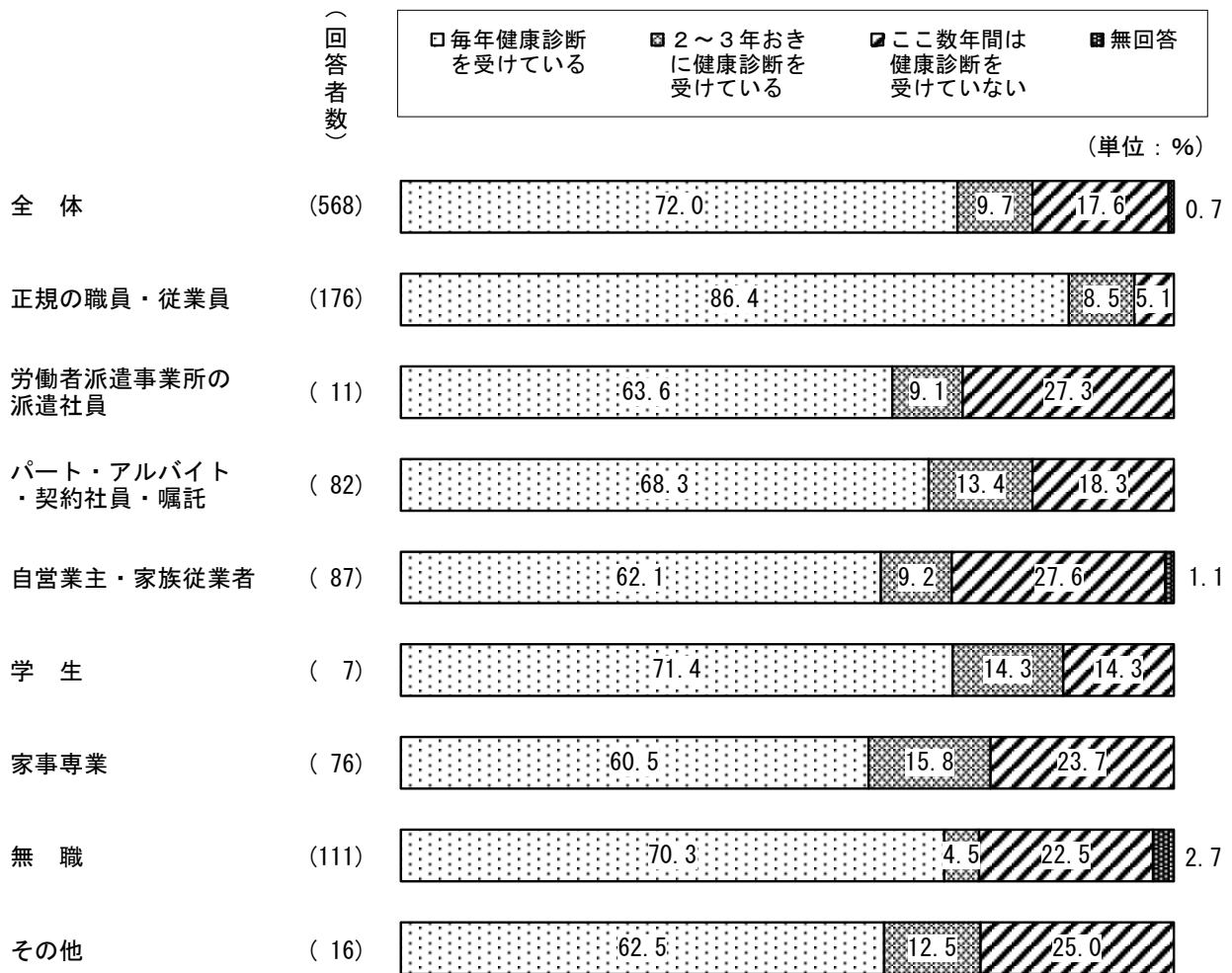
〈図2-6〉性別



〈図2-7〉年齢別



〈図2-8〉職業別



(3) 健康診断の受診場所

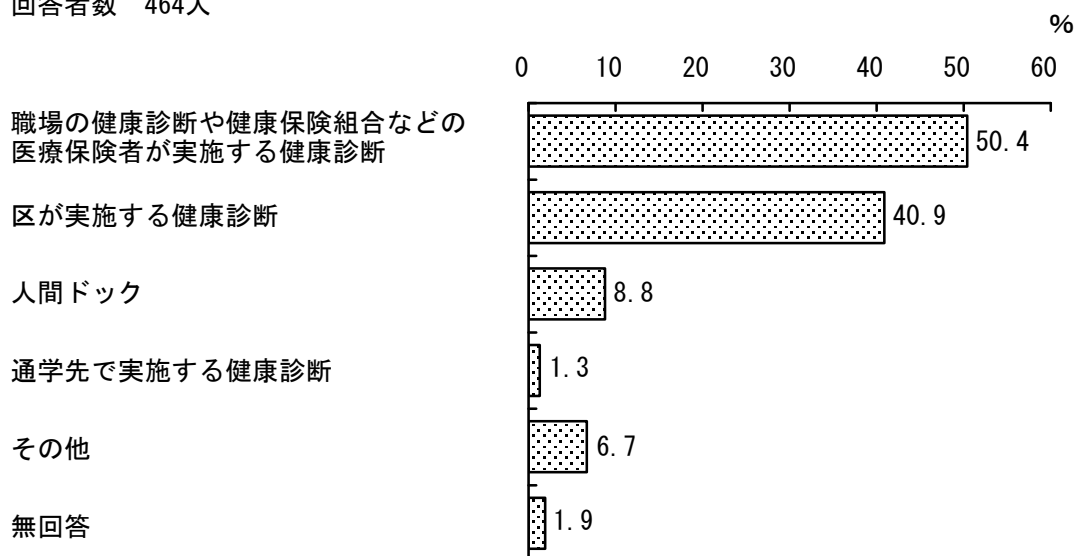
◆職場や健康保険組合などが実施する健康診断が5割、区が実施する健康診断が4割

(問9で「1. 毎年健康診断を受けている」「2. 2～3年おきに健康診断を受けている」に○をつけた方に)

問10. 健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

〈図2-9〉全体

回答者数 464人



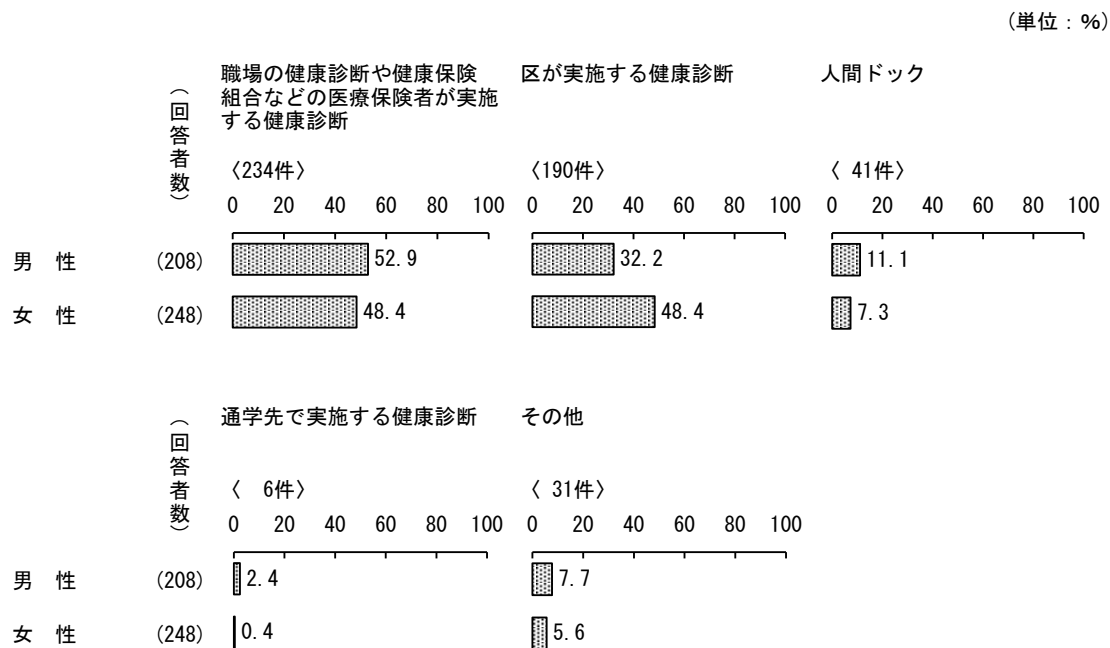
健康診断を受けている人に、受診場所をたずねたところ、「職場の健康診断や健康保険組合などの医療保険者が実施する健康診断」と答えた人が50.4%で最も多く、次いで、「区が実施する健康診断」が40.9%となっている。以下、「人間ドック」(8.8%)、「通学先で実施する健康診断」(1.3%)の順になっている。(図2-9)

性別に見ると、「職場の健康診断や健康保険組合などの医療保険者が実施する健康診断」と答えた人は男性(52.9%)が女性(48.4%)より4.5ポイント高くなっている。一方、「区が実施する健康診断」と答えた人は女性(48.4%)が男性(32.2%)より16.2ポイント高くなっている。(図2-10)

年齢別に見ると、「職場の健康診断や健康保険組合などの医療保険者が実施する健康診断」と答えた人は30歳代で90.3%と最も高く、20歳代で73.8%、40歳代で65.0%となっている。また、「区が実施する健康診断」と答えた人は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、70歳代以上では70%台後半となっている。(図2-11)

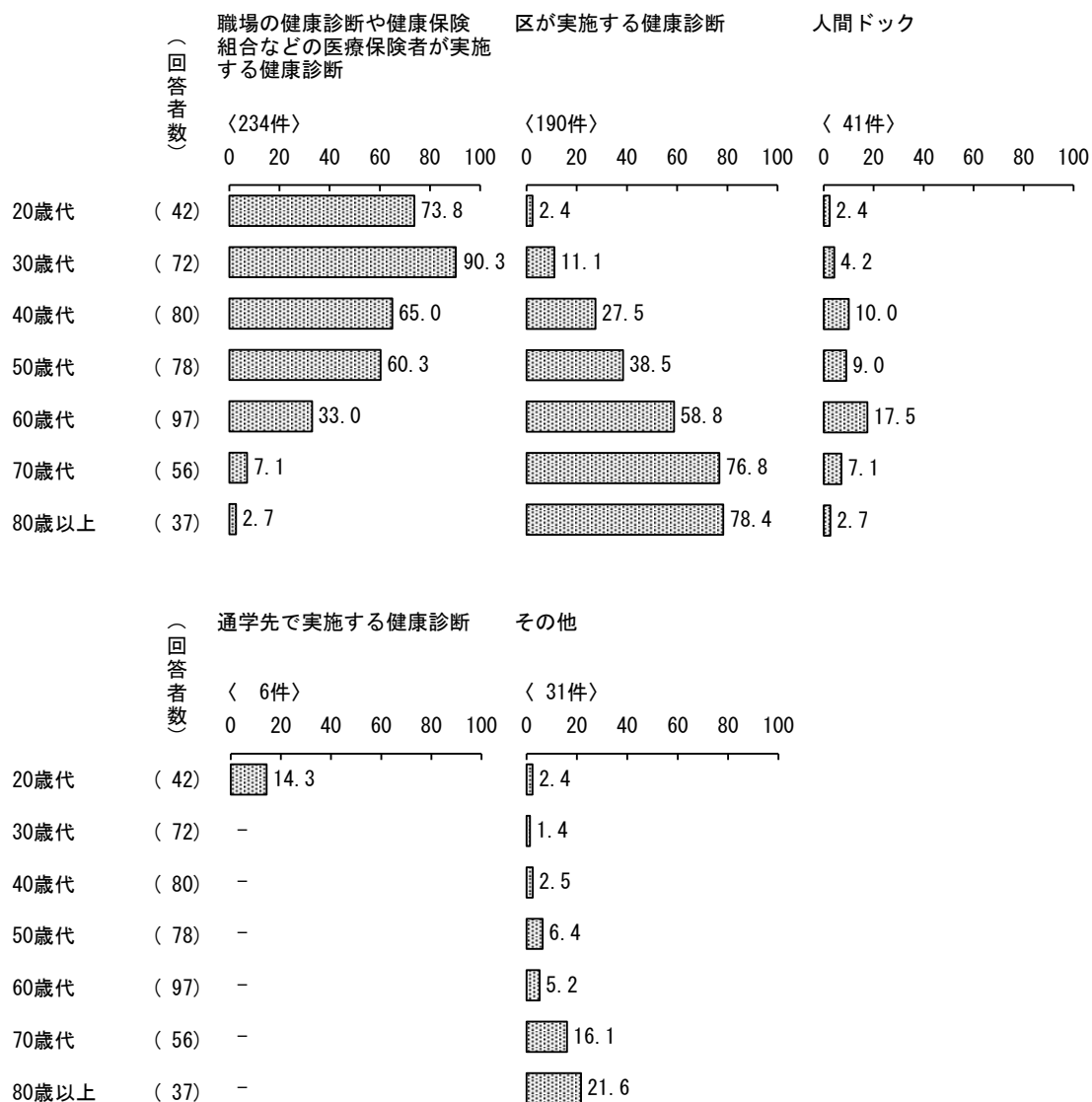
職業別に見ると、「職場の健康診断や健康保険組合などの医療保険者が実施する健康診断」と答えた人は正規の職員・従業員と労働者派遣事務所の派遣社員で9割弱となっている。一方、「区が実施する健康診断」と答えた人は家事専業と無職で70%以上、自営業主・家族従業者で64.5%と高くなっている。(図2-12)

〈図2-10〉性別



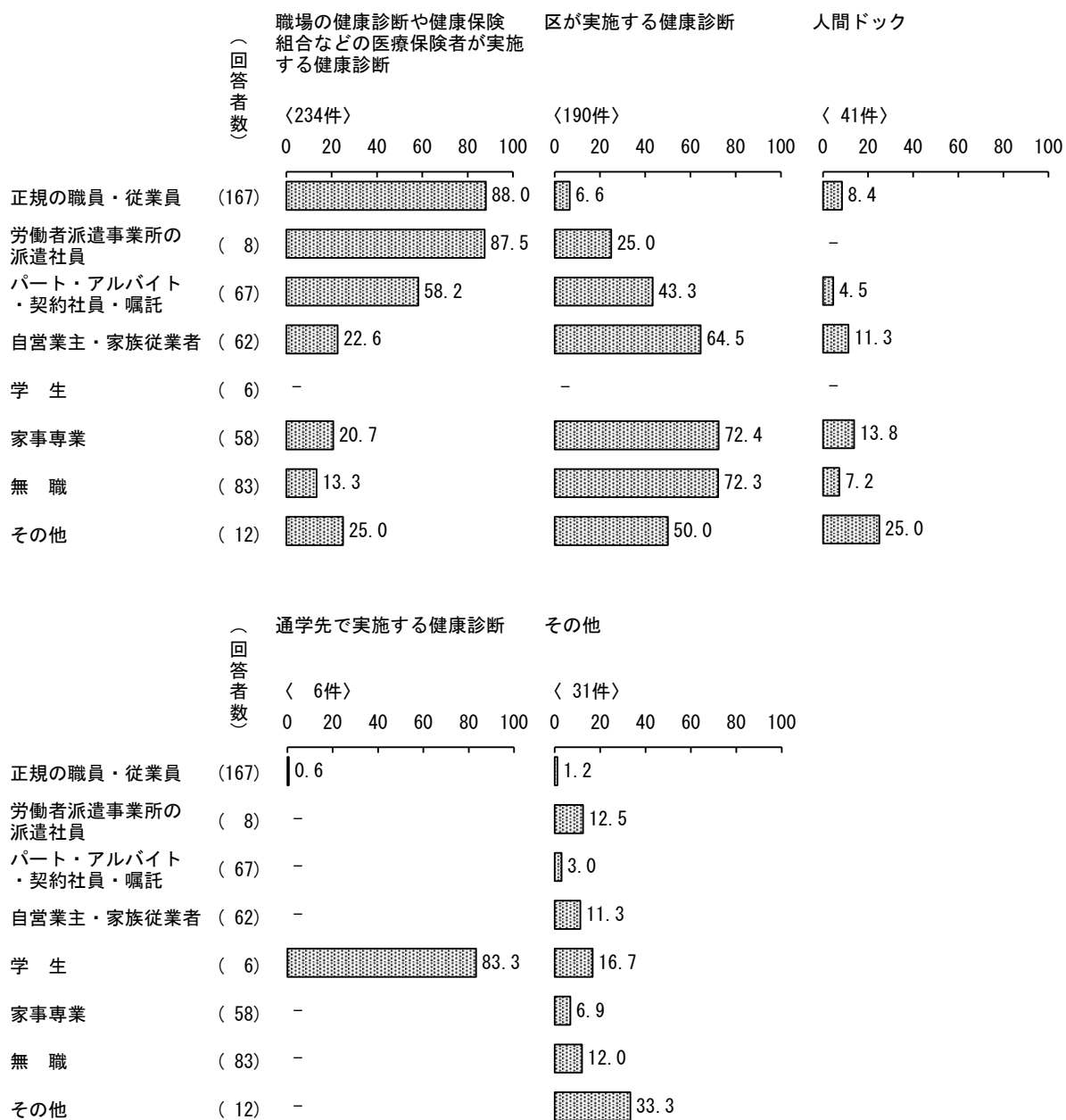
〈図2-11〉年齢別

(単位：%)



〈図2-12〉 職業別

(単位：%)



(4) 健康診断結果の活用

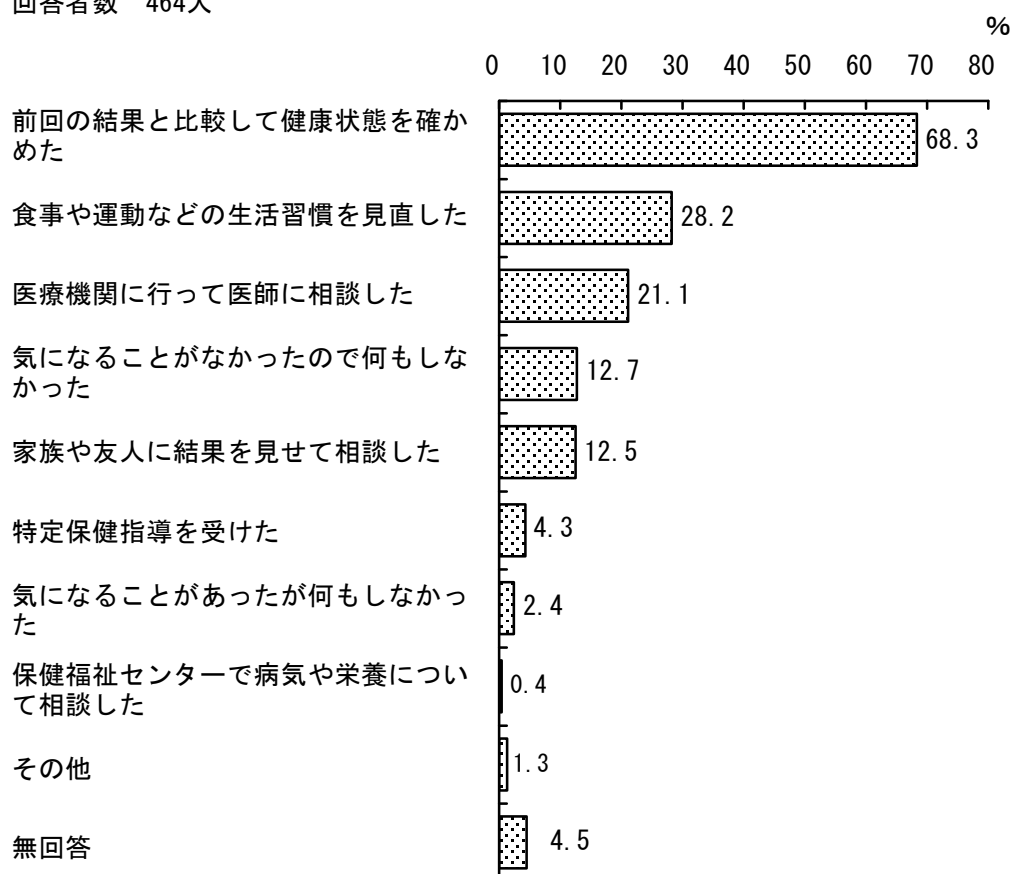
◆前回結果と比較した人が7割弱

(問9で「1. 毎年健康診断を受けている」「2. 2～3年おきに健康診断を受けている」に○をつけた方に)

問11. 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

〈図2-13〉全体

回答者数 464人



※特定保健指導とは、メタボリックシンドローム（内臓脂肪型肥満）の早期発見を目的とした健康診査（特定健診）の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備軍とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のことです。

健康診断を受けている人に、健康診断の結果の活用についてたずねたところ、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」(68.3%)と答えた人が最も多くなっている。以下、「食事や運動などの生活習慣を見直した」(28.2%)、「医療機関に行って医師に相談した」(21.1%)、「気になることがなかったので何もしなかった」(12.7%)、「家族や友人に結果を見せて相談した」(12.5%)、「特定保健指導を受けた」(4.3%)、「気になることがあったが何もしなかった」(2.4%)、「保健福祉センターで病気や栄養について相談した」(0.4%)の順になっている。

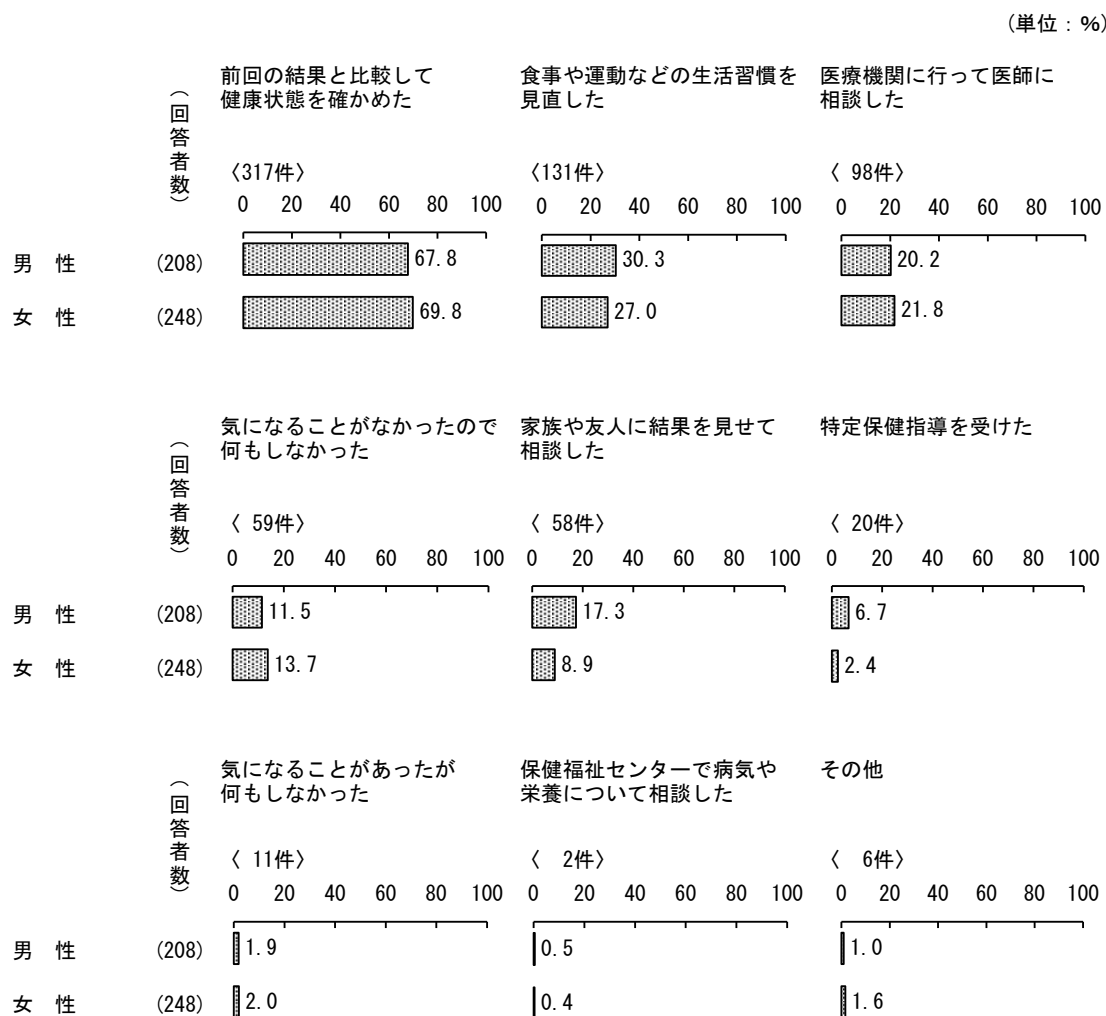
(図2-13)

性別に見ると、男女とも「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」と答えた人が最も高くなっている。また、「家族や友人に結果を見せて相談した」と答えた人は男性（17.3%）が女性（8.9%）より8.4ポイント高くなっている。（図2-14）

年齢別に見ると、すべての年代で、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」と答えた人が最も高く、特に、30～50歳代では70%以上となっている。一方、「気になることがなかったなので何もしなかった」と答えた人は20歳代で28.6%と高くなっている。（図2-15）

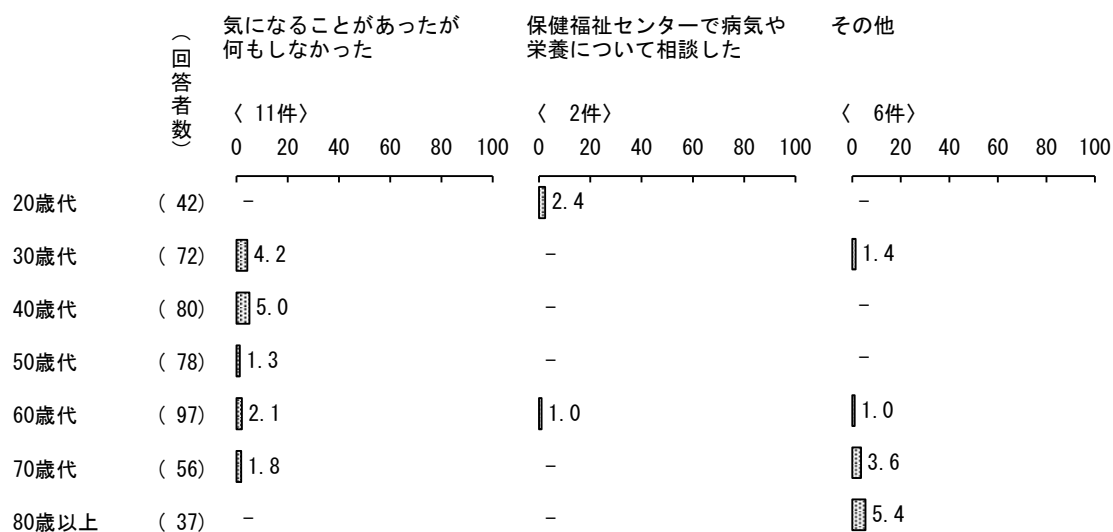
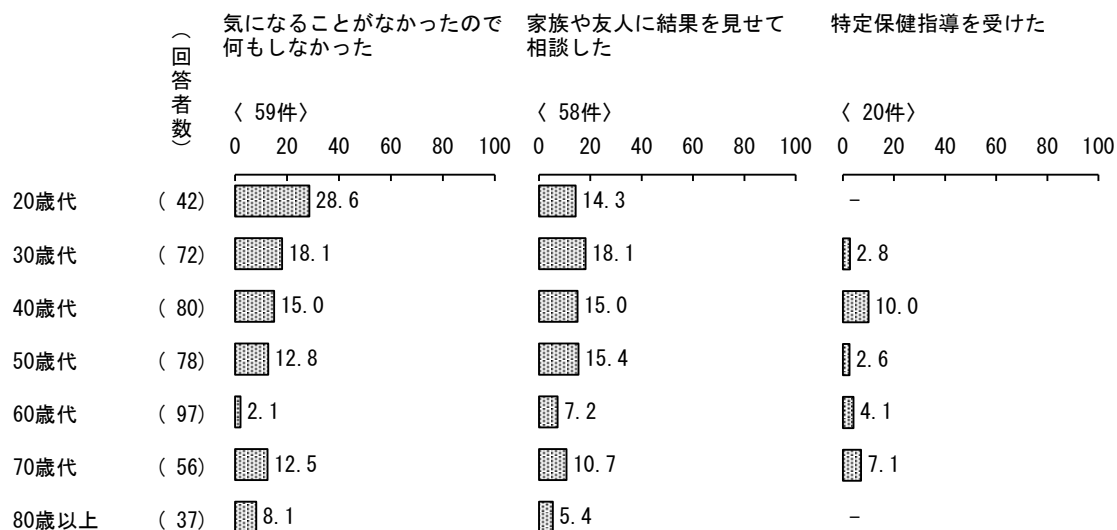
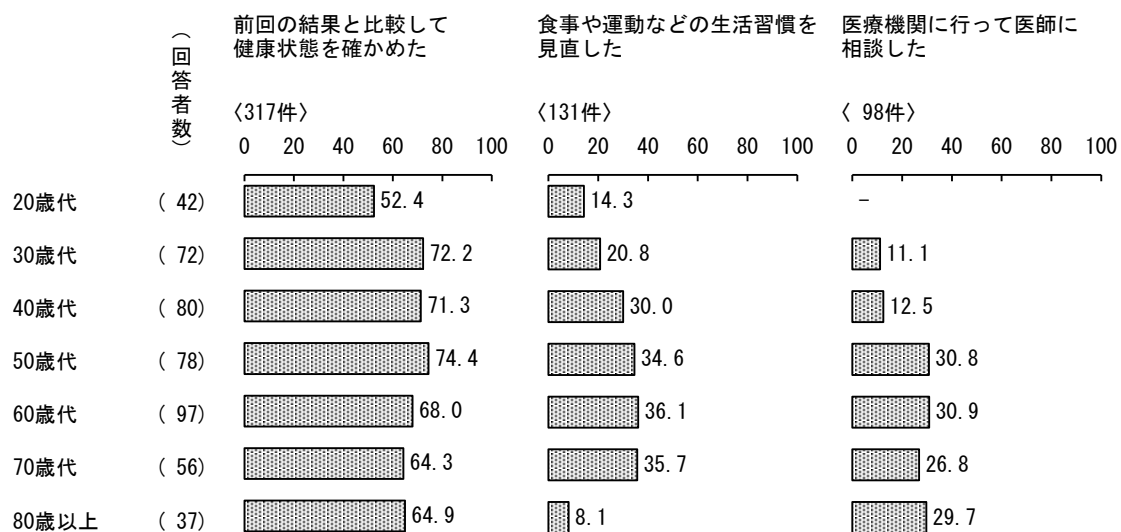
職業別に見ると、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」と答えた人は正規の職員・従業員と労働者派遣事務所の派遣社員で70%以上となっている。（図2-16）

〈図2-14〉性別



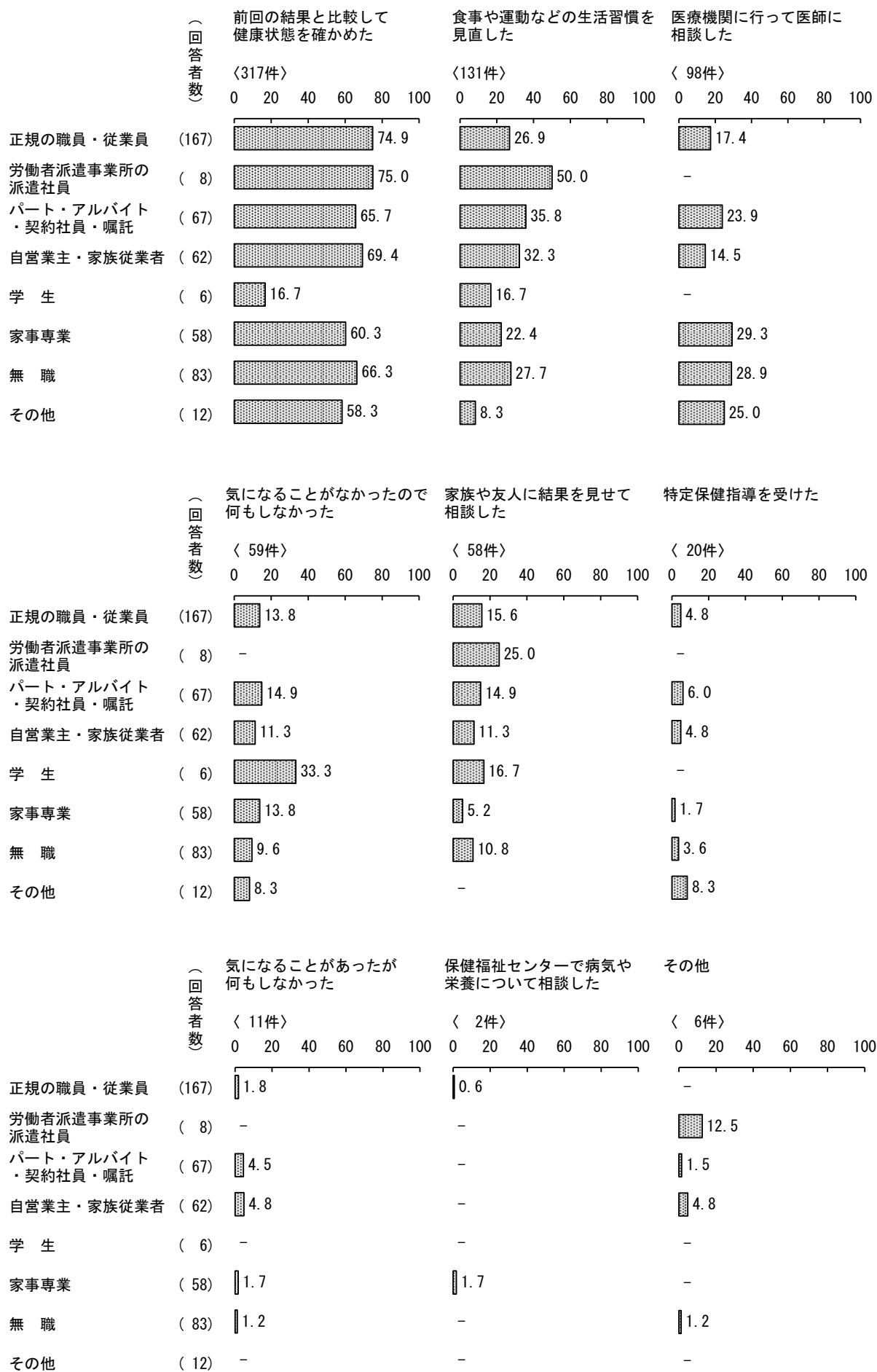
〈図2-15〉年齢別

(単位：%)



〈図2-16〉職業別

(単位：%)



(5) 健康診断を受けなかった理由

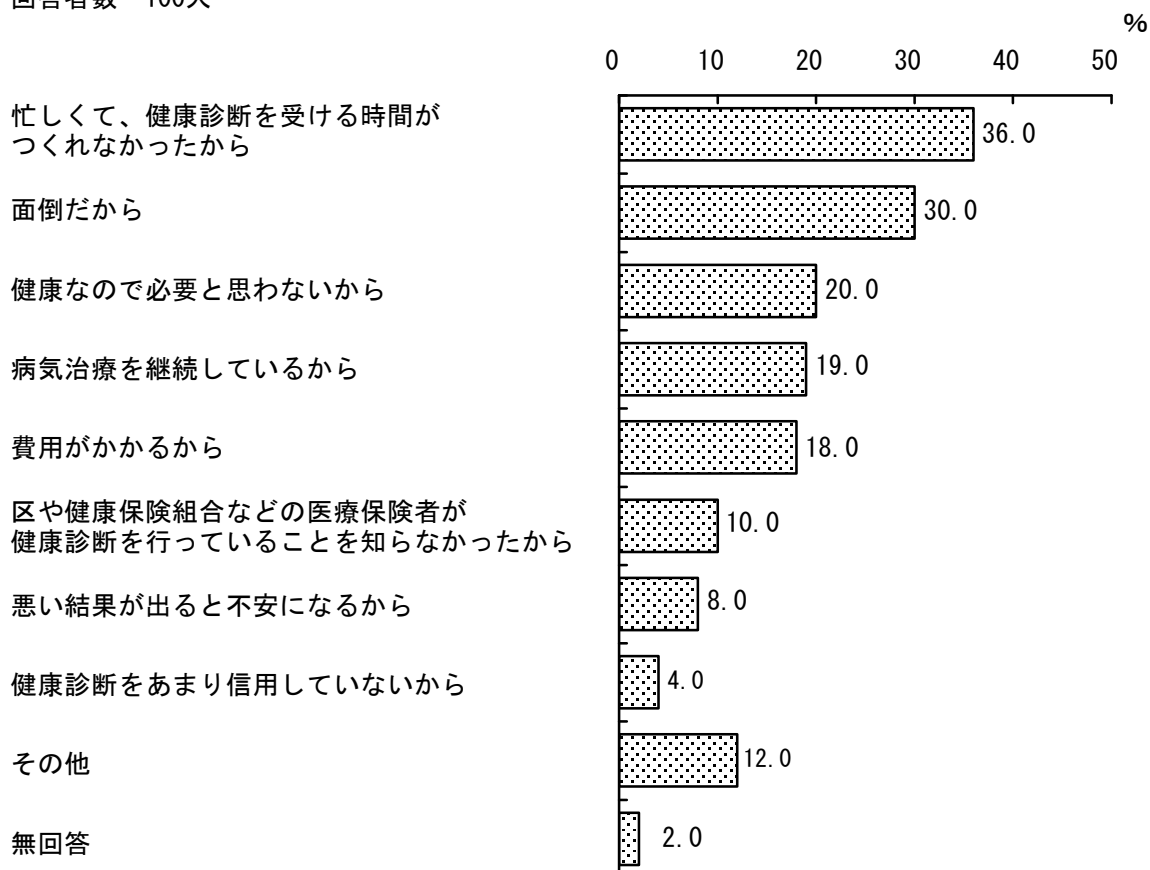
◆「忙しくて、時間がつくれなかったから」が3割半

(問9で「3. ここ数年間は健康診断を受けていない」に○をつけた方に)

問12. あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

〈図2-17〉全体

回答者数 100人



健康診断を受けなかった理由としては、「忙しくて、健康診断を受ける時間がつくれなかったから」(36.0%)と答えた人が最も多くなっている。以下、「面倒だから」(30.0%)、「健康なので必要と思わないから」(20.0%)、「病気治療を継続しているから」(19.0%)、「費用がかかるから」(18.0%)、「区や健康保険組合などの医療保険者が健康診断を行っていることを知らなかったから」(10.0%)、「悪い結果が出ると不安になるから」(8.0%)、「健康診断をあまり信用していないから」(4.0%)の順になっている。(図2-17)

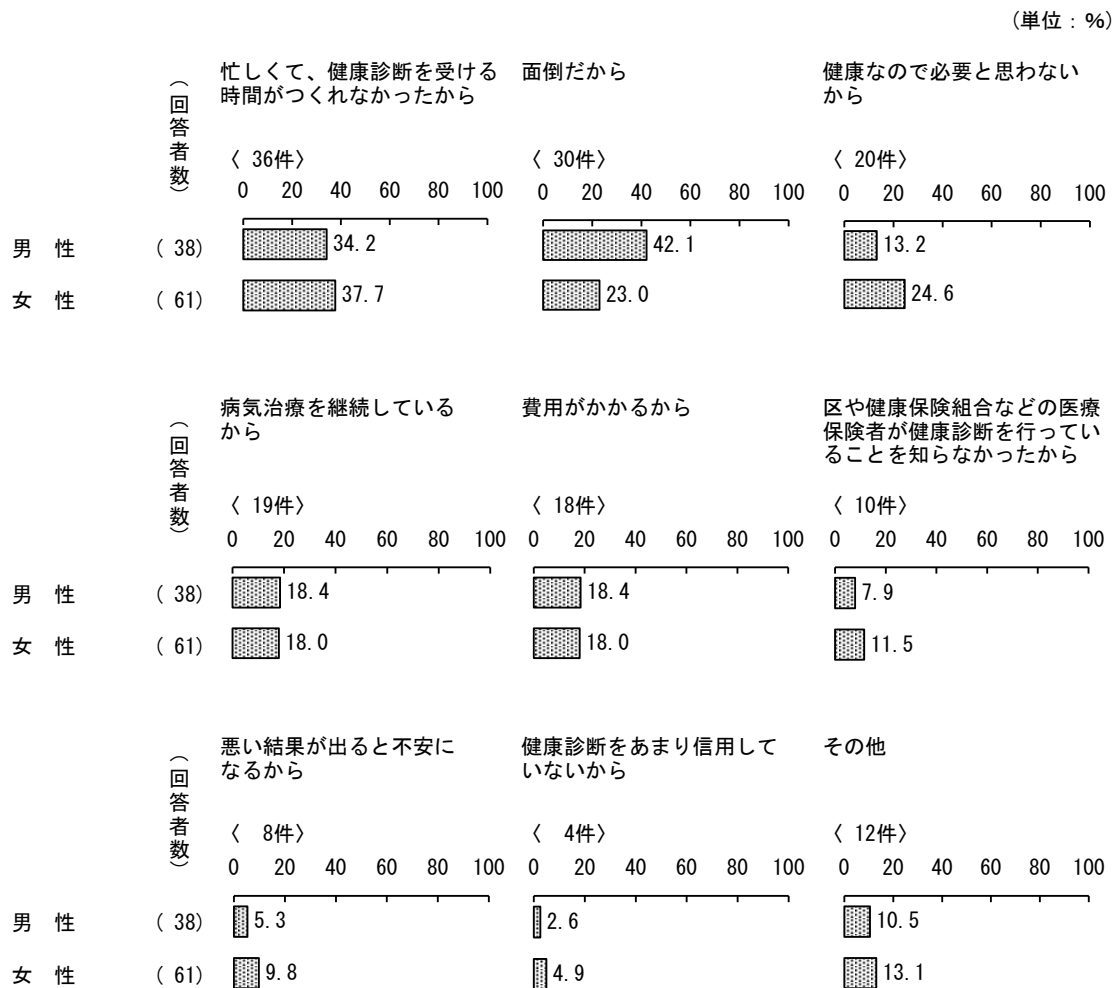
性別に見ると、「忙しくて、健康診断を受ける時間がつくれなかったから」と答えた人(男性34.2%、女性37.7%)では3.5ポイント、「健康なので必要と思わないから」と答えた人(男性13.2%、女性24.6%)では11.4ポイント、ともに女性の割合が高くなっている。一方、「面

倒だから」と答えた人は男性（42.1%）が女性（23.0%）より 19.1 ポイント高くなっている。
 (図 2-18)

年齢別に見ると、「忙しくて、健康診断を受ける時間がつくれなかったから」と答えた人は 50 歳代で 61.5%と最も高くなっている。一方、「費用がかかるから」と答えた人は 20 歳代で 46.2%となっている。(図 2-19)

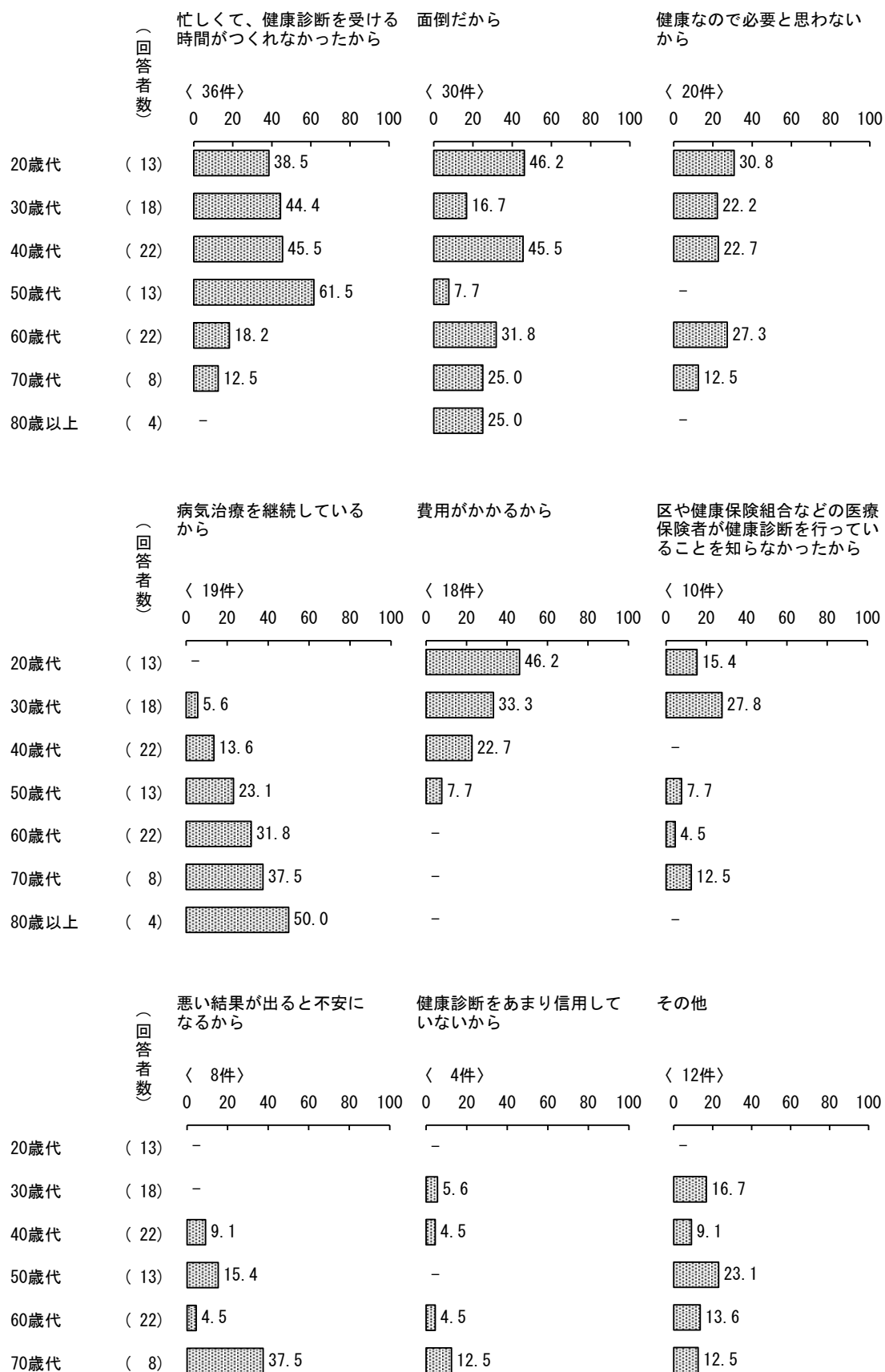
職業別に見ると、「忙しくて、健康診断を受ける時間がつくれなかったから」と答えた人は 自営業主・家族従業者で 70.8%と高くなっている。(図 2-20)

〈図 2-18〉 性別



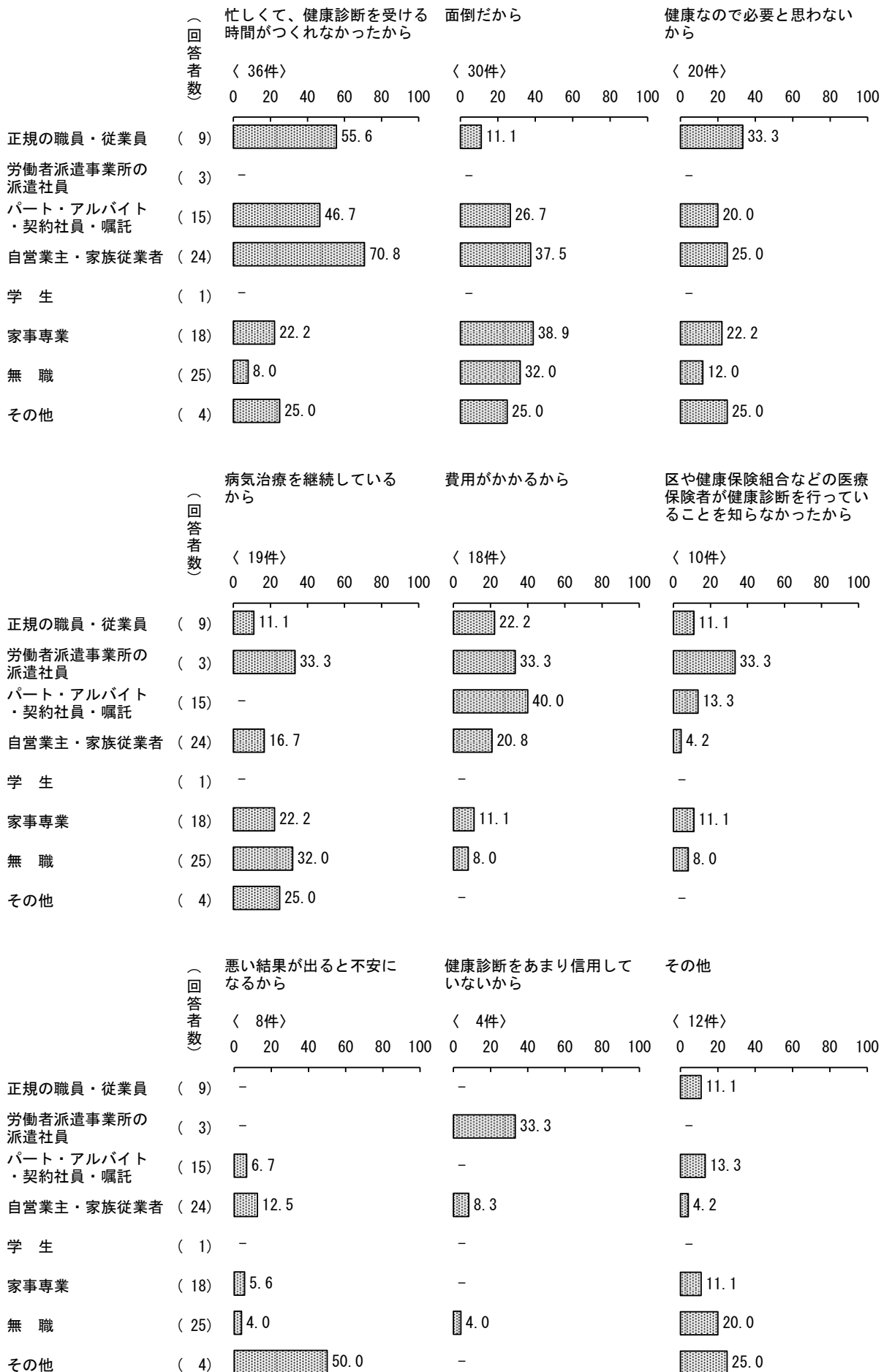
〈図2-19〉年齢別

(単位：%)



〈図2-20〉 職業別

(単位：%)



(6) がん検診の受診頻度

◆毎年受診している人が3割強、今まで受けたことがない人が4割強

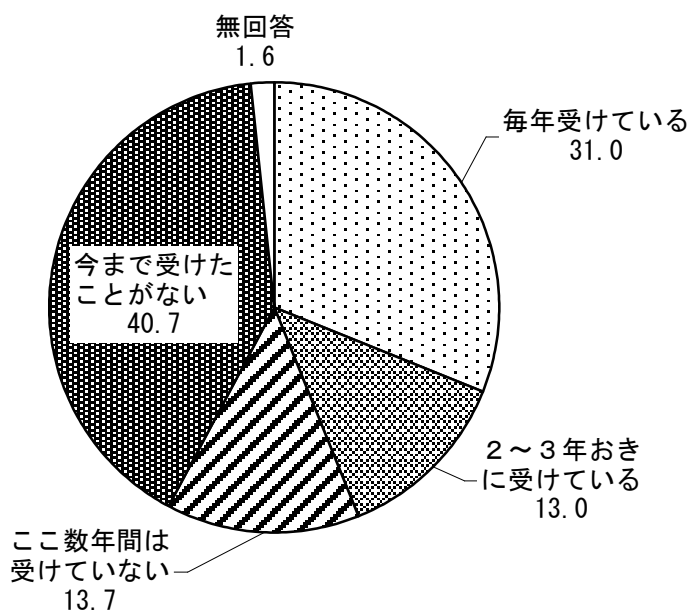
(全員の方に)

問 13. あなたは、定期的ながん検診を受けていますか。(○は1つ)

〈図 2-21〉 全体

回答者数 568人

単位 : %



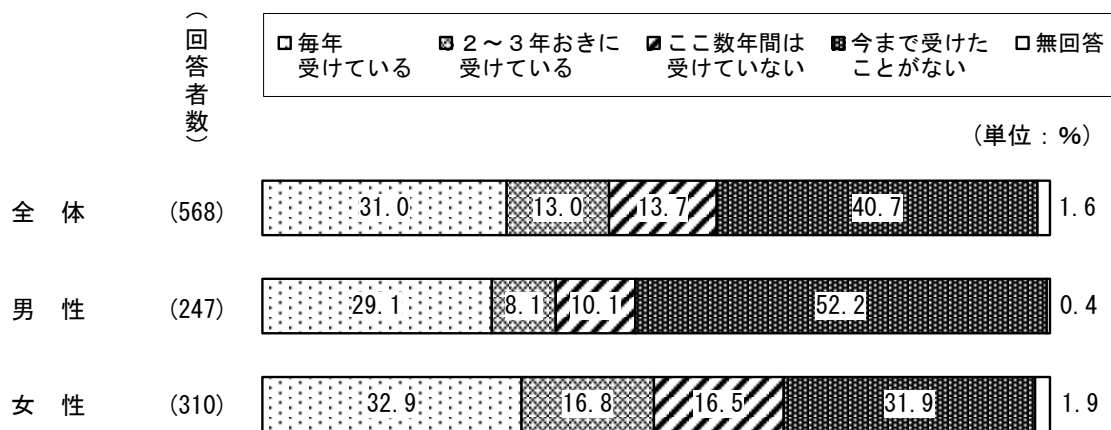
がん検診の受診頻度については、「毎年受けている」と答えた人は31.0%、「2～3年おきに受けている」と答えた人は13.0%、「ここ数年間は受けていない」と答えた人は13.7%、「今まで受けたことがない」と答えた人は40.7%となっている。(図 2-21)

性別に見ると、「毎年受けている」と答えた人は男女とも30%前後となっている。一方、「今まで受けたことがない」と答えた人は男性(52.2%)が女性(31.9%)より20.3ポイント高くなっている。(図 2-22)

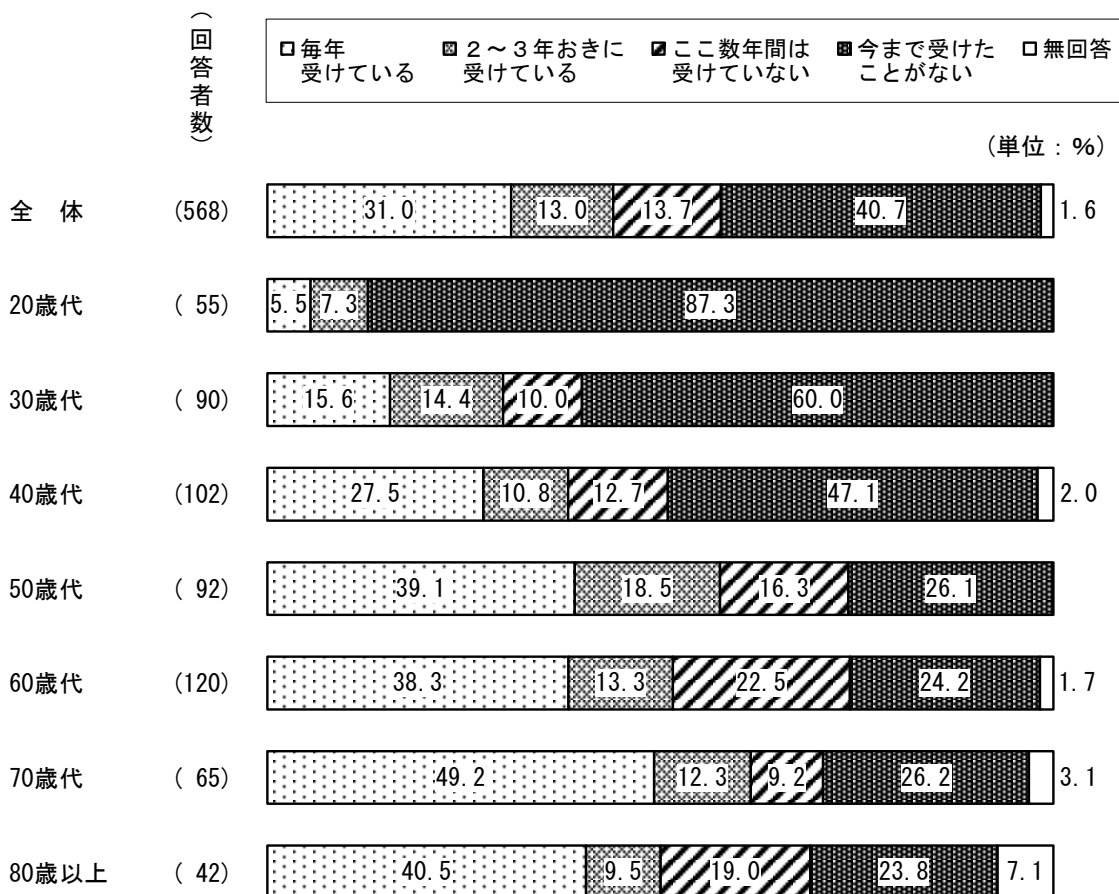
年齢別に見ると、「毎年受けている」と答えた人は70歳代で49.2%と高くなっている。一方、「今まで受けたことがない」と答えた人は20歳代で87.3%、30歳代で60.0%、40歳代で47.1%となっている。(図 2-23)

職業別に見ると、「毎年受けている」と答えた人は家事専業と自営業主・家族従業者で約40%と高くなっている。一方、「今まで受けたことがない」と答えた人は学生、労働者派遣事業所の派遣社員、正規の職員・従業員で高くなっている。(図 2-24)

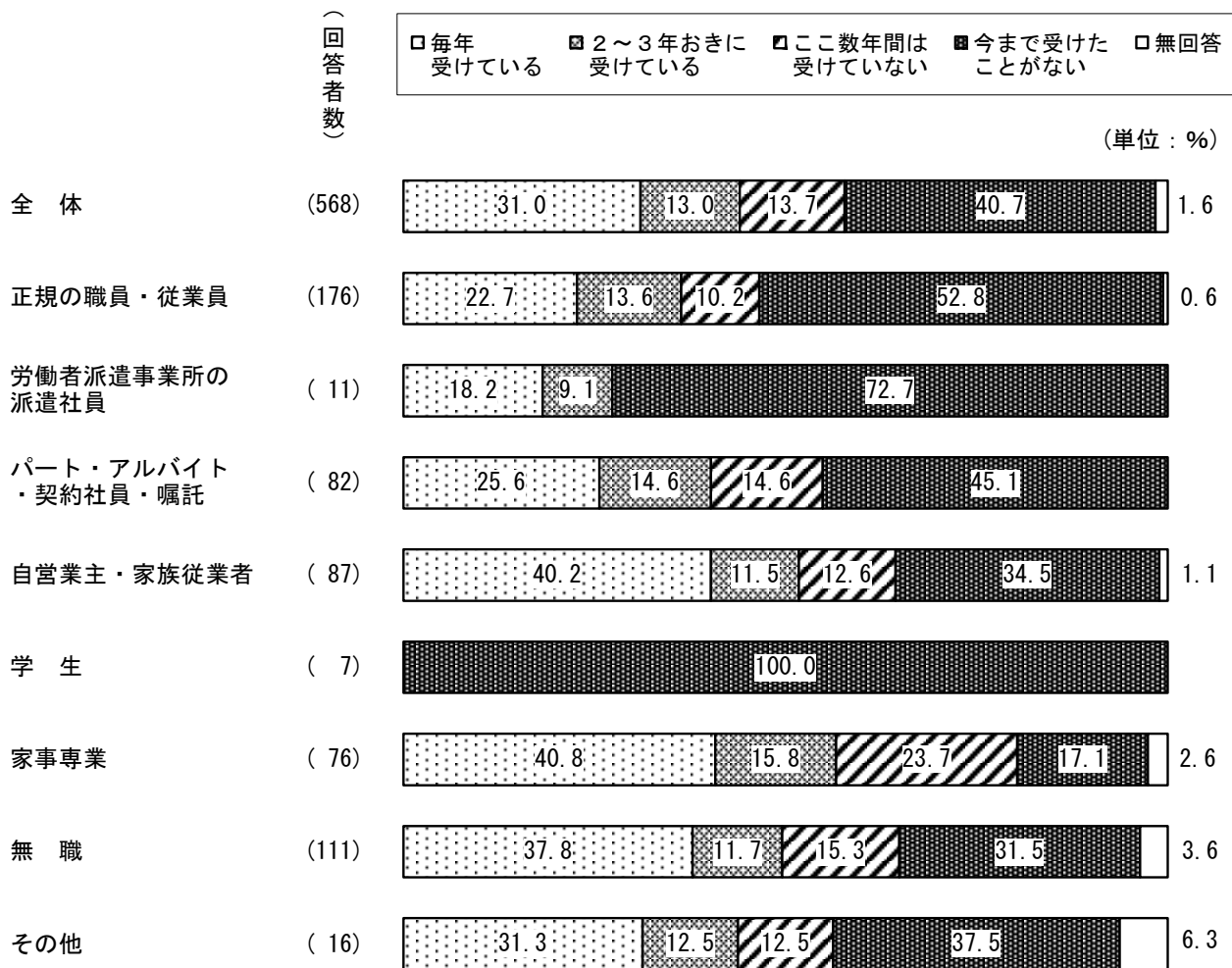
〈図 2-22〉 性別



〈図 2-23〉 年齢別



〈図2-24〉職業別



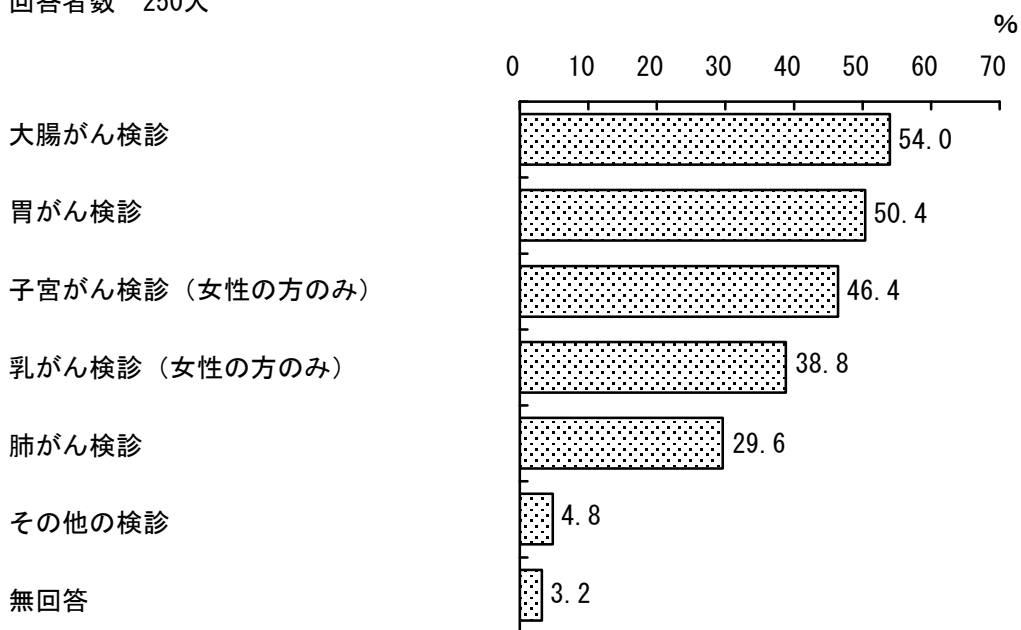
(7) 受診したがん検診の種類

◆大腸がん検診、胃がん検診が5割以上

(問13で「1. 毎年受けている」「2. 2～3年おきに受けている」に○をつけた方に)
問14. 受診したがん検診の種類は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

〈図2-25〉全体

回答者数 250人



受診したがん検診の種類としては、「大腸がん検診」(54.0%)が最も多く、以下、「胃がん検診」(50.4%)、「子宮がん検診 (女性の方のみ)」(46.4%)、「乳がん検診 (女性の方のみ)」(38.8%)、「肺がん検診」(29.6%)、「その他の検診」(4.8%)の順になっている。(図2-25)

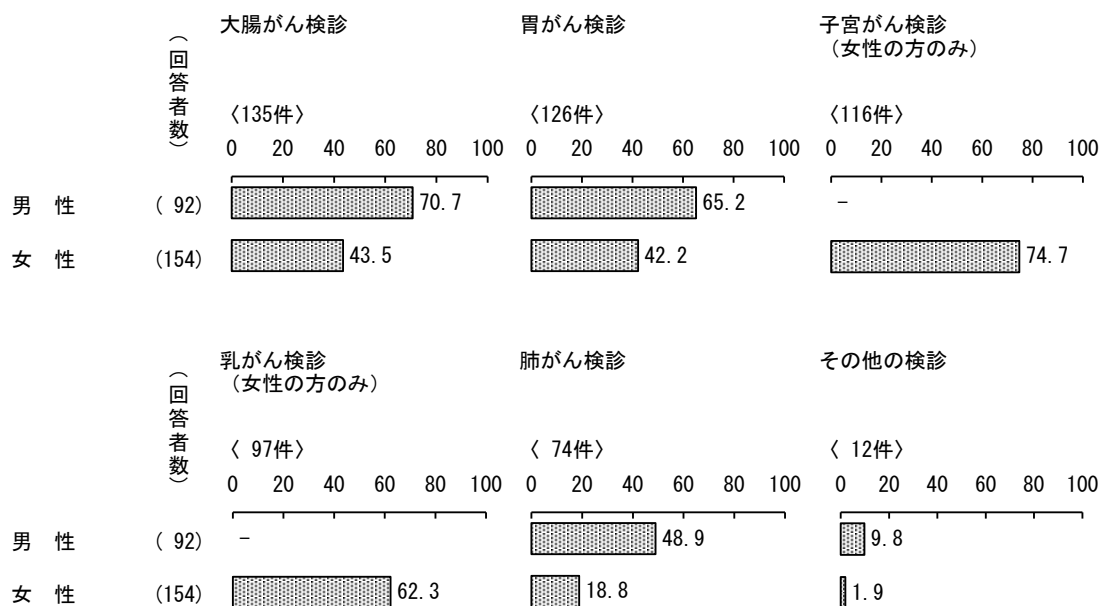
性別に見ると、「大腸がん検診」、「胃がん検診」、「肺がん検診」のいずれにおいても男性の割合が高くなっている。(図2-26)

年齢別に見ると、「大腸がん検診」は60歳代以上で70%前後、「胃がん検診」は50～60歳代で60%以上、「肺がん検診」は80歳以上で57.1%と高くなっている。また、「子宮がん検診 (女性の方のみ)」は20～50歳代で、「乳がん検診 (女性の方のみ)」は40～50歳代で、それぞれ半数以上となっている。(図2-27)

職業別に見ると、「大腸がん検診」は自営業主・家族従業者と無職で70%前後、家事専業で60.5%となっている。また、「胃がん検診」、「肺がん検診」は自営業主・家族従業者で高くなっている。(図2-28)

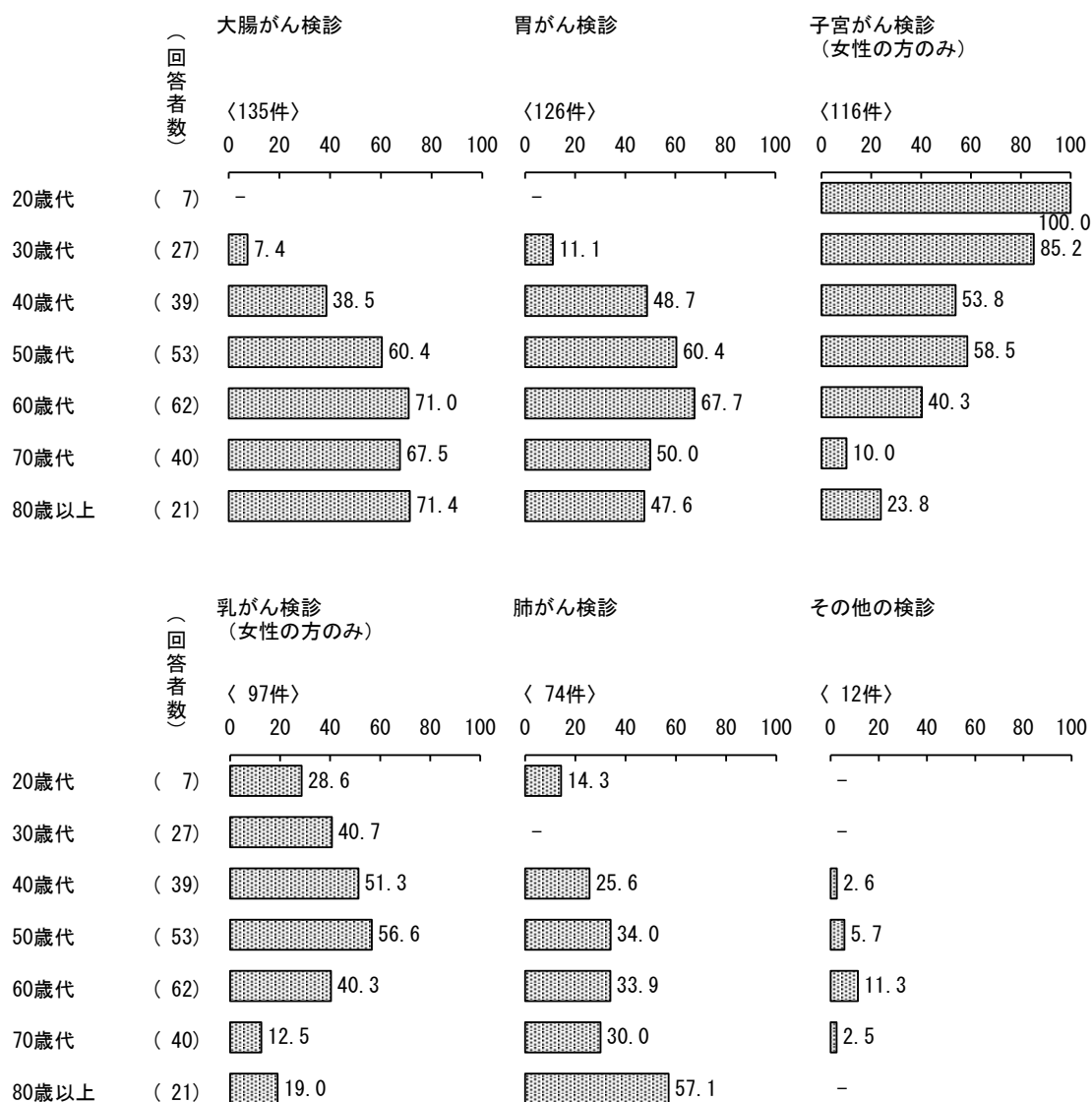
〈図2-26〉性別

(単位：%)



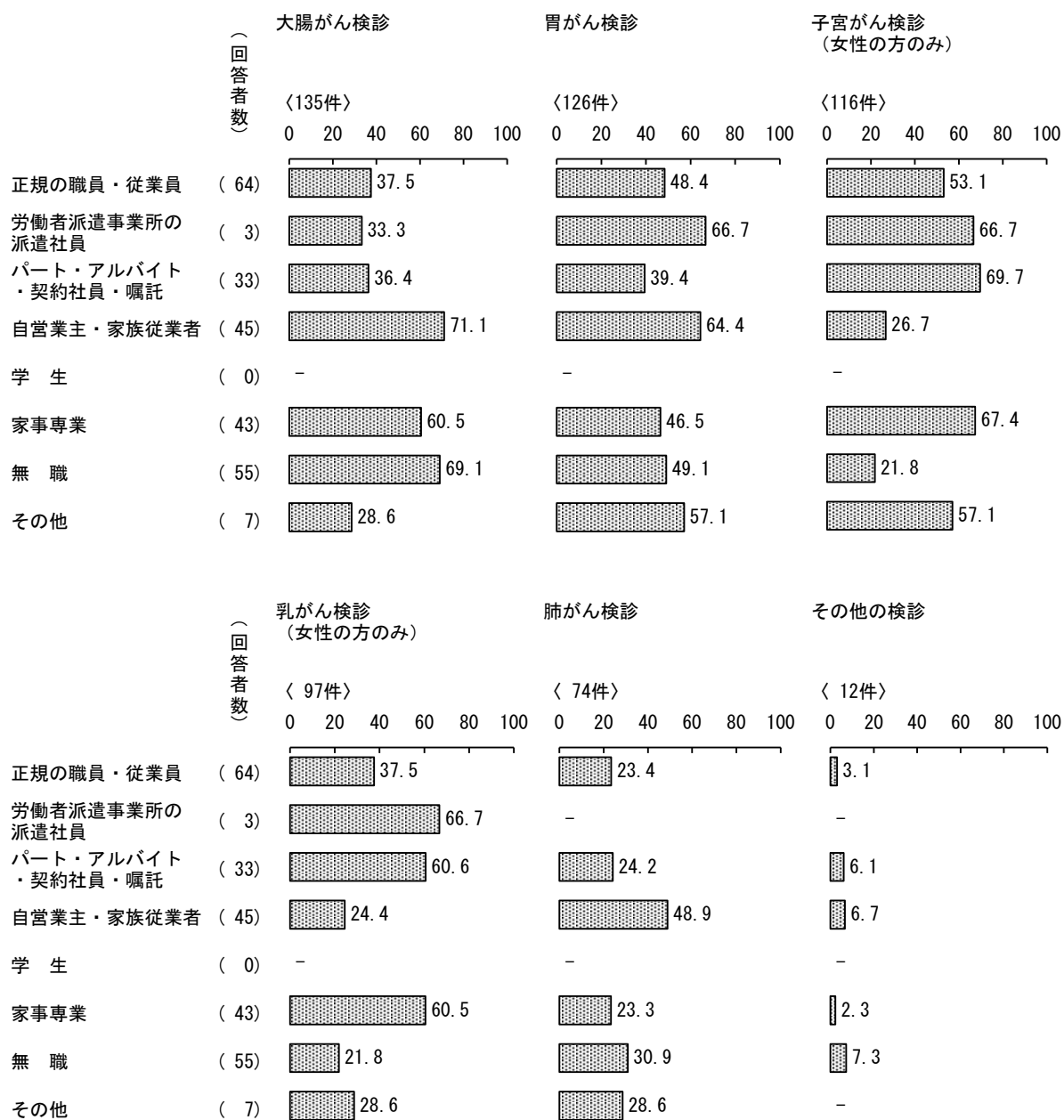
〈図2-27〉年齢別

(単位：%)



〈図2-28〉職業別

(単位：%)



(8) 生活習慣病予防のために、実行していること

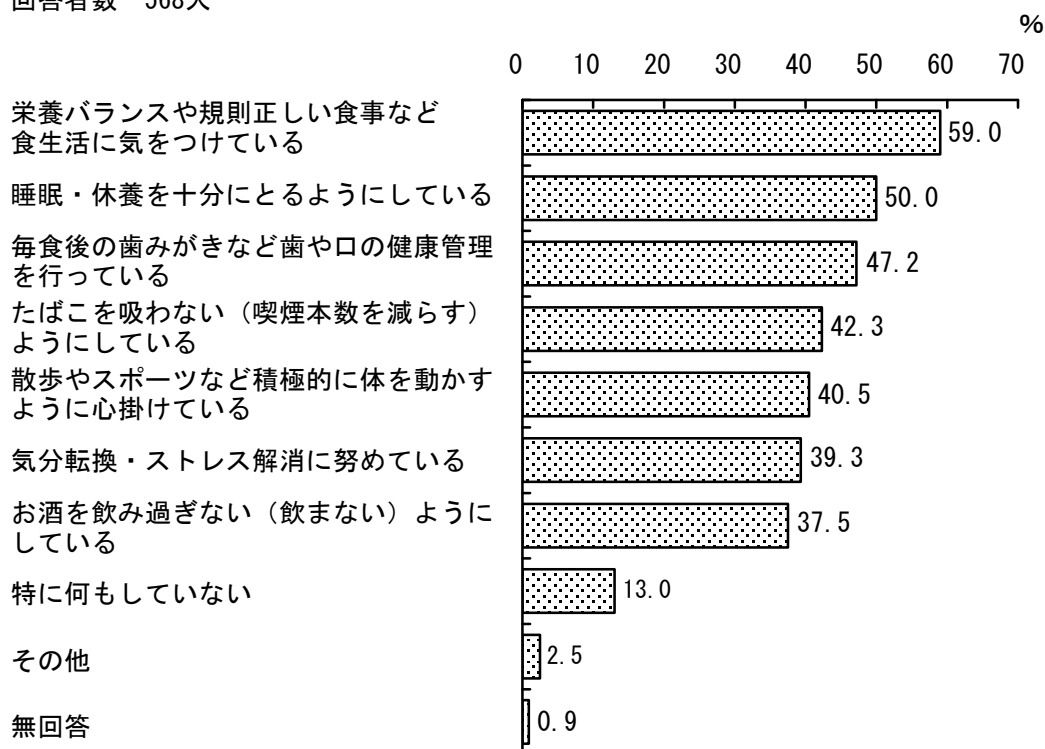
◆「食生活に気をつける」が6割弱、「十分な睡眠・休養」が5割

(全員の方に)

問 15. がん、心臓病、脳卒中、糖尿病など、日頃の生活習慣が密接に関係する病気を「生活習慣病」と呼んでいます。あなたが、生活習慣病予防のために、自ら進んで実行していることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

〈図 2-29〉全体

回答者数 568人



生活習慣病予防のために、自ら進んで実行していることとしては、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」(59.0%)が最も多く、次いで、「睡眠・休養を十分にとるようにしている」(50.0%)が5割で続いている。以下、「毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理を行っている」(47.2%)、「たばこを吸わない(喫煙本数を減らす)ようにしている」(42.3%)、「散歩やスポーツなど積極的に体を動かすように心掛けている」(40.5%)、「気分転換・ストレス解消に努めている」(39.3%)、「お酒を飲み過ぎない(飲まない)ようにしている」(37.5%)の順となっている。また、「特に何もしていない」(13.0%)が1割強となっている。(図 2-29)

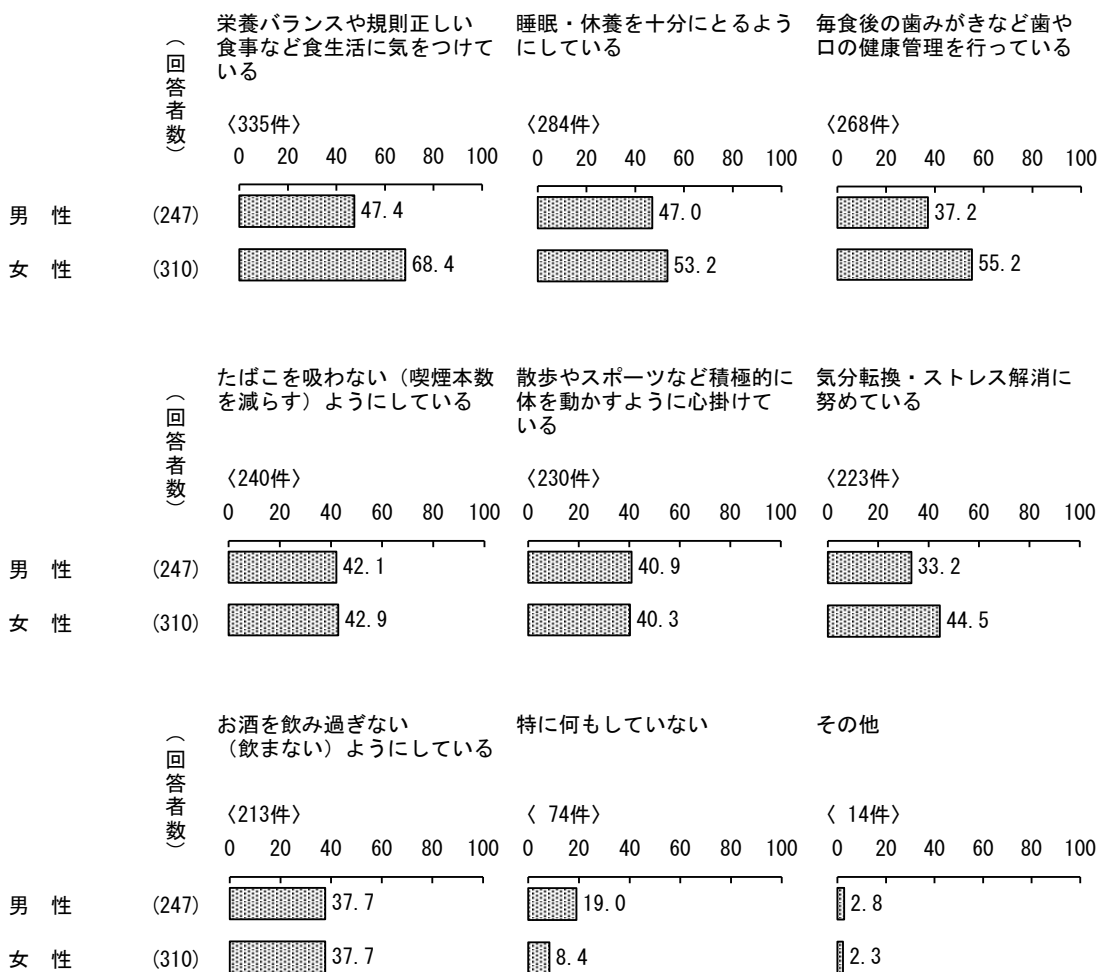
性別に見ると、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」(女性 68.4%、男性 47.4%)と答えた人では21ポイント、「毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理を行って

いる」(女性 55.2%、男性 37.2%) と答えた人では 18 ポイント、それぞれ女性の方が高くなっている。一方、「特に何もしていない」(男性 19.0%、女性 8.4%) と答えた人では、男性の方が女性より 10.6 ポイント高くなっている。(図 2-30)

年齢別に見ると、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」と答えた人は 70 歳代以上で 60% 台後半となっている。(図 2-31)

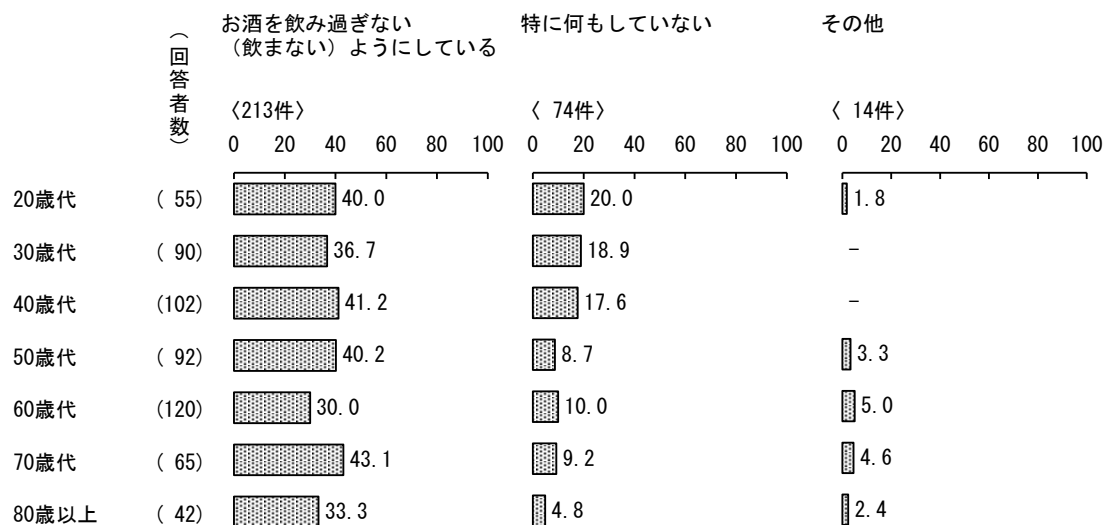
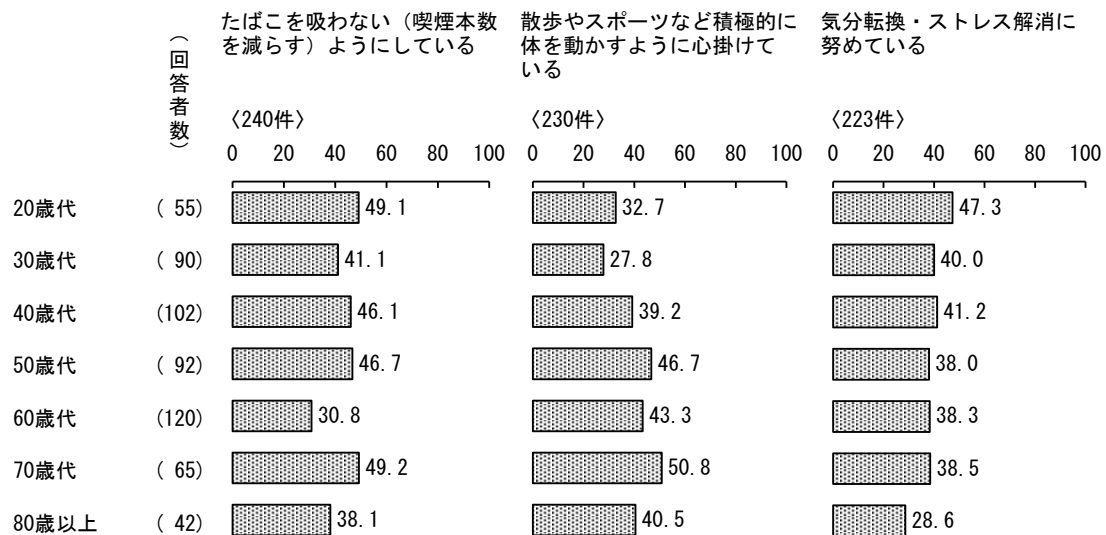
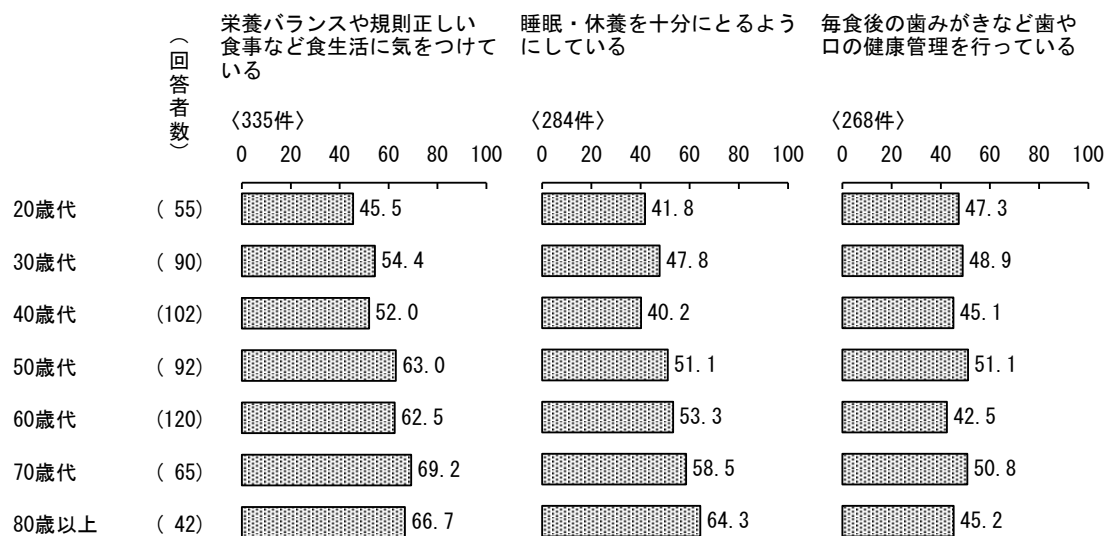
〈図 2-30〉 性別

(単位：%)



〈図2-31〉年齢別

(単位：%)



(9) かかりつけの診療所の有無

◆「決めている」と「だいたい決めている」を合わせると7割強

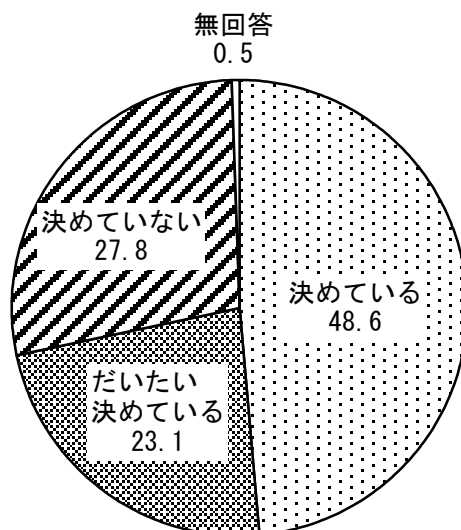
(全員の方に)

問 16. あなたは自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所（医院・クリニック）を決めていますか。（○は1つ）

〈図 2-32〉 全体

回答者数 568人

単位：%

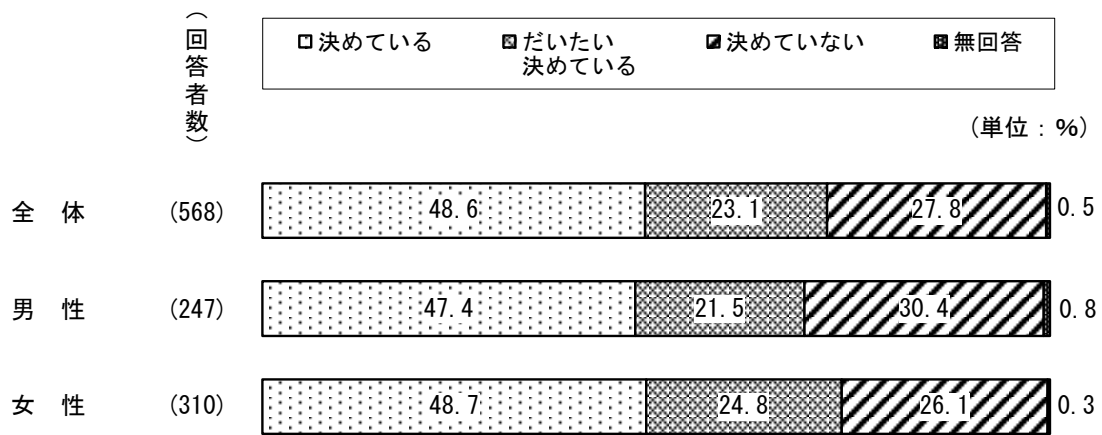


自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所（医院・クリニック）を「決めている」と答えた人が 48.6%と5割弱を占める。「だいたい決めている」と答えた人は 23.1%で、この両者を合わせた“おおむね決めている”が7割強となっている。一方、「決めていない」と答えた人は 27.8%となっている。(図 2-32)

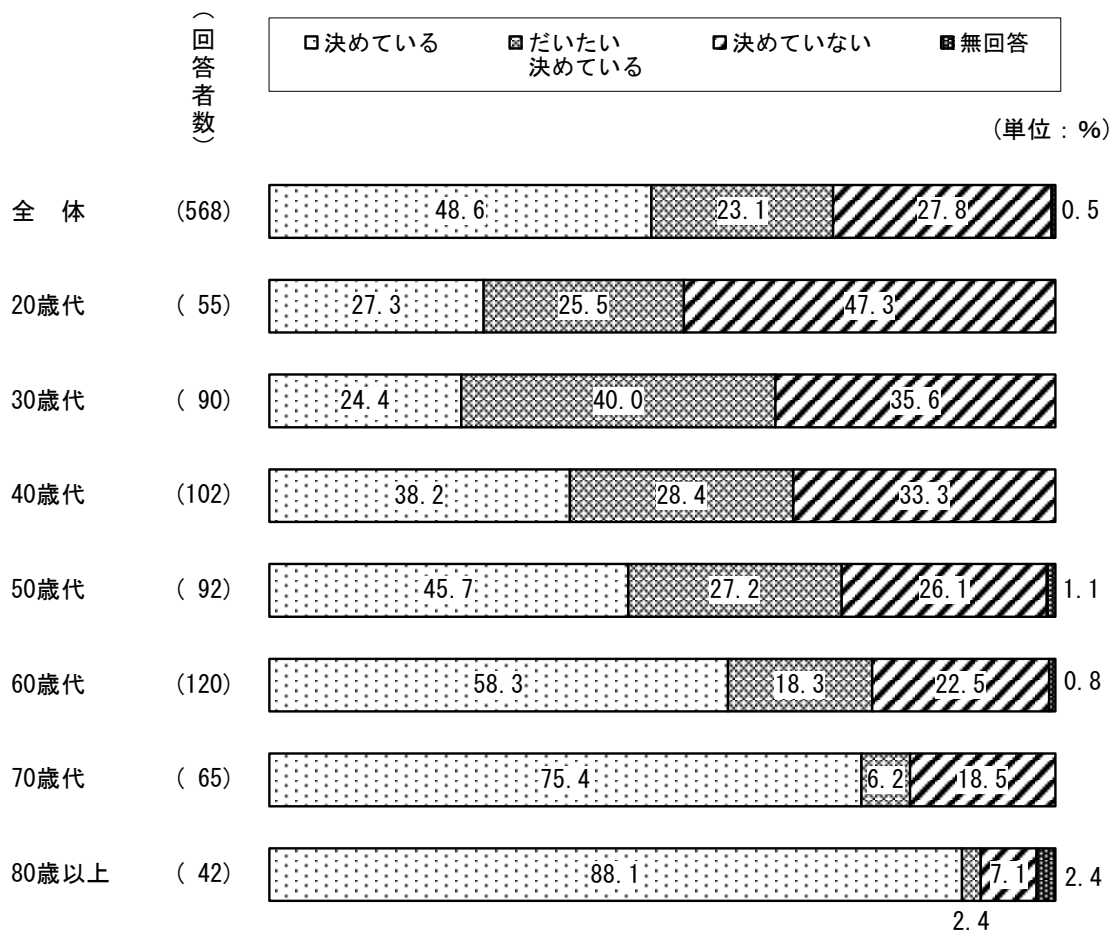
性別に見ると、「決めている」と答えた人は男女とも5割弱となっている。(図 2-33)

年齢別に見ると、「決めている」と答えた人は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、特に、80歳以上では 88.1%、70歳代では 75.4%と高くなっている。(図 2-34)

〈図 2-33〉 性別



〈図 2-34〉 年齢別



(10) かかりつけの診療所からの健康についてのアドバイスの有無

◆「受けている」が5割強

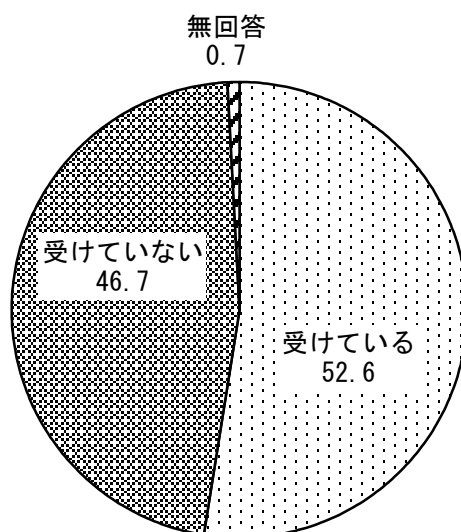
(問16で「1. 決めている」「2. だいたい決めている」に○をつけた方に)

問17. あなたは、かかりつけの診療所(医院・クリニック)で、普段から本人や家族などの日常生活を含めた健康についてのアドバイスを受けていますか。(○は1つ)

〈図2-35〉全体

回答者数 407人

単位：%



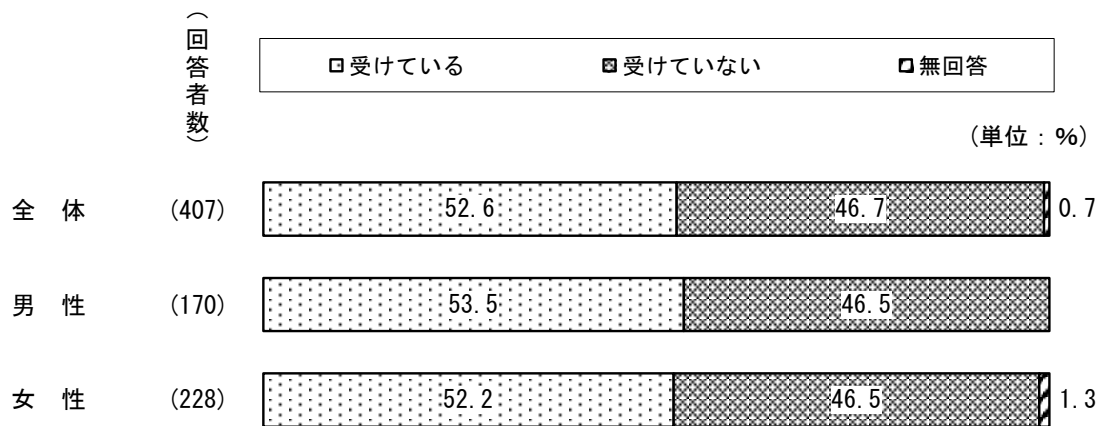
※かかりつけの診療所(医院・クリニック)との関係については、普段から気軽に相談し、あなたや家族の健康状態を踏まえた適切な治療やアドバイスが受けられる、また、必要ならばふさわしい専門医を紹介してくれるという関係を築いていくことが大切です。

かかりつけの診療所(医院・クリニック)で、普段から本人や家族などの日常生活を含めた健康についてのアドバイスを「受けている」人は52.6%となっている。一方、「受けていない」人は46.7%となっている。(図2-35)

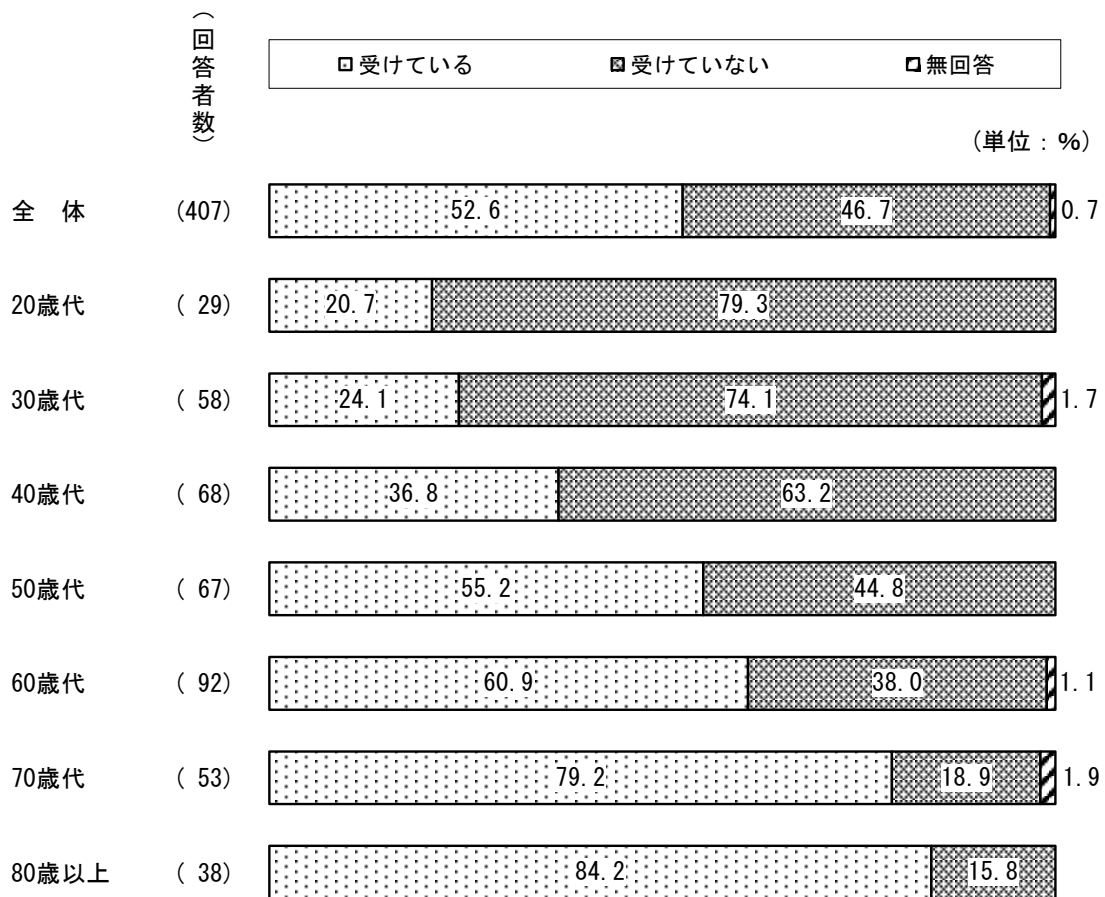
性別に見ると、「受けている」と答えた人は男女とも5割以上となっており、男女では大きな差は見られない。(図2-36)

年齢別に見ると、「受けている」と答えた人は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、特に70歳代以上では80%前後と高くなっている。(図2-37)

〈図2-36〉性別



〈図2-37〉年齢別



(11) 地域の救急医療環境の整備状況

◆「整っていると思う」と「ほぼ整っていると思う」を合わせると7割弱

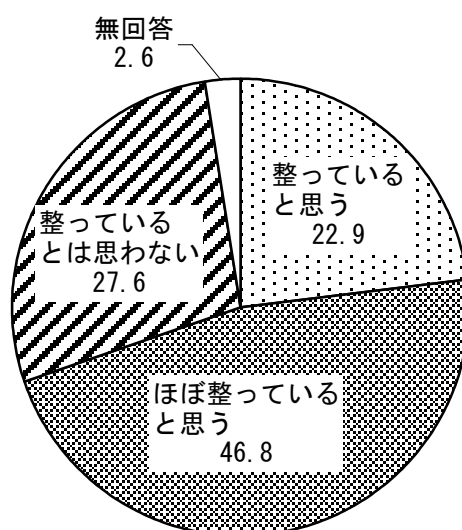
(全員の方に)

問 18. あなたは、自宅のある地域で救急患者が出た場合に、病状に応じた適切な医療を受けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ)

〈図 2-38〉 全体

回答者数 568人

単位：%



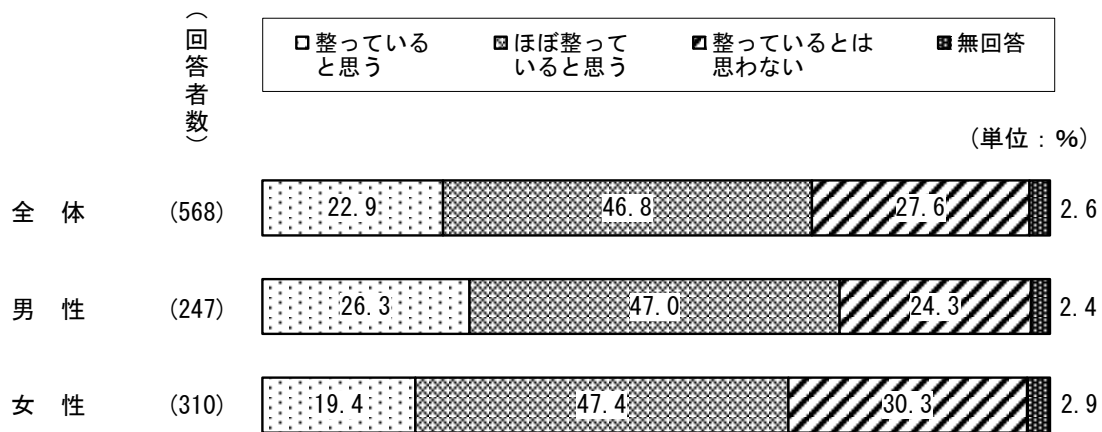
自宅のある地域で救急患者が病状に応じた適切な医療を受けられる環境が、「整っていると思う」と答えた人は22.9%、「ほぼ整っていると思う」と答えた人は46.8%となっており、この両者を合わせた“おおむね整っていると思う”が7割弱となっている。一方、「整っているとは思わない」と答えた人は27.6%となっている。(図 2-38)

性別に見ると、“おおむね整っていると思う”は男性(73.3%)が女性(66.8%)より6.5ポイント高くなっている。(図 2-39)

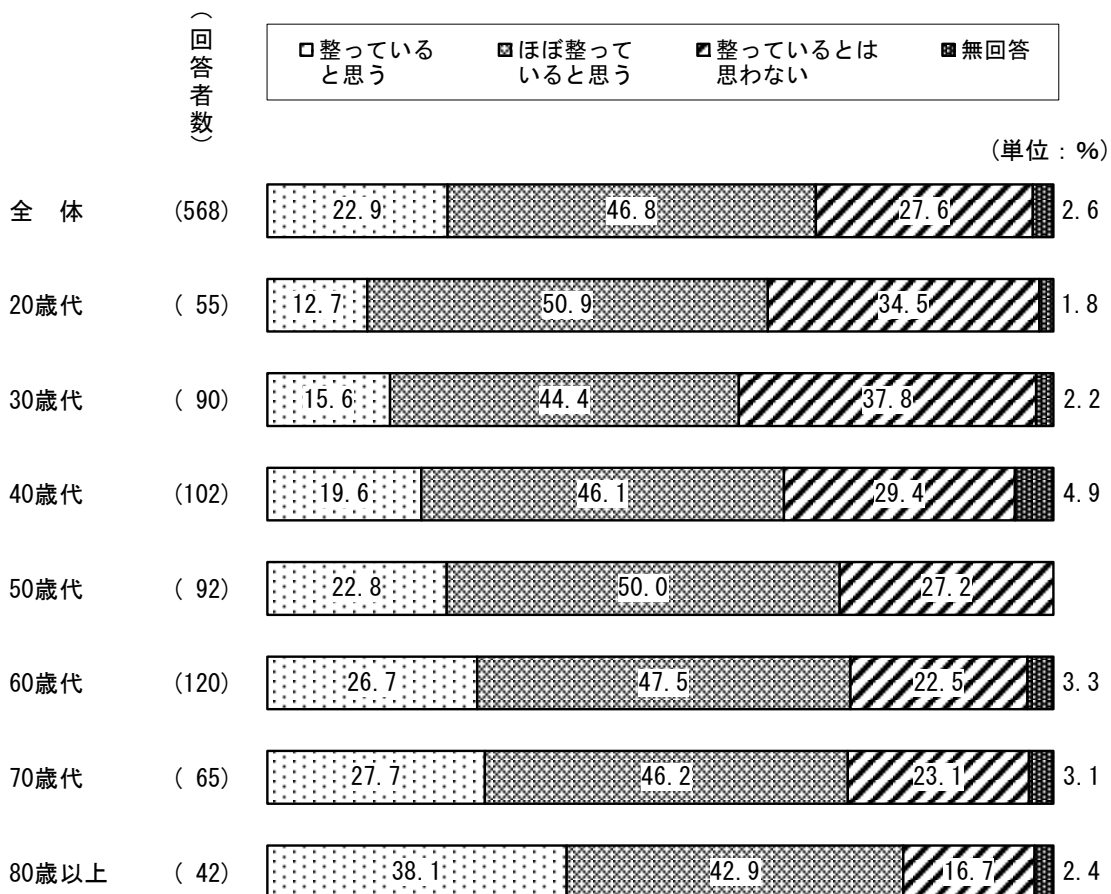
年齢別に見ると、“おおむね整っていると思う”は80歳以上で81.0%となっている。一方、「整っているとは思わない」と答えた人は20~30歳代で30%台となっている。(図 2-40)

居住地域別に見ると、“おおむね整っていると思う”は新井(86.2%)、中央(86.0%)で高くなっている。一方、「整っているとは思わない」と答えた人は白鷺で半数以上となっている。(図 2-41)

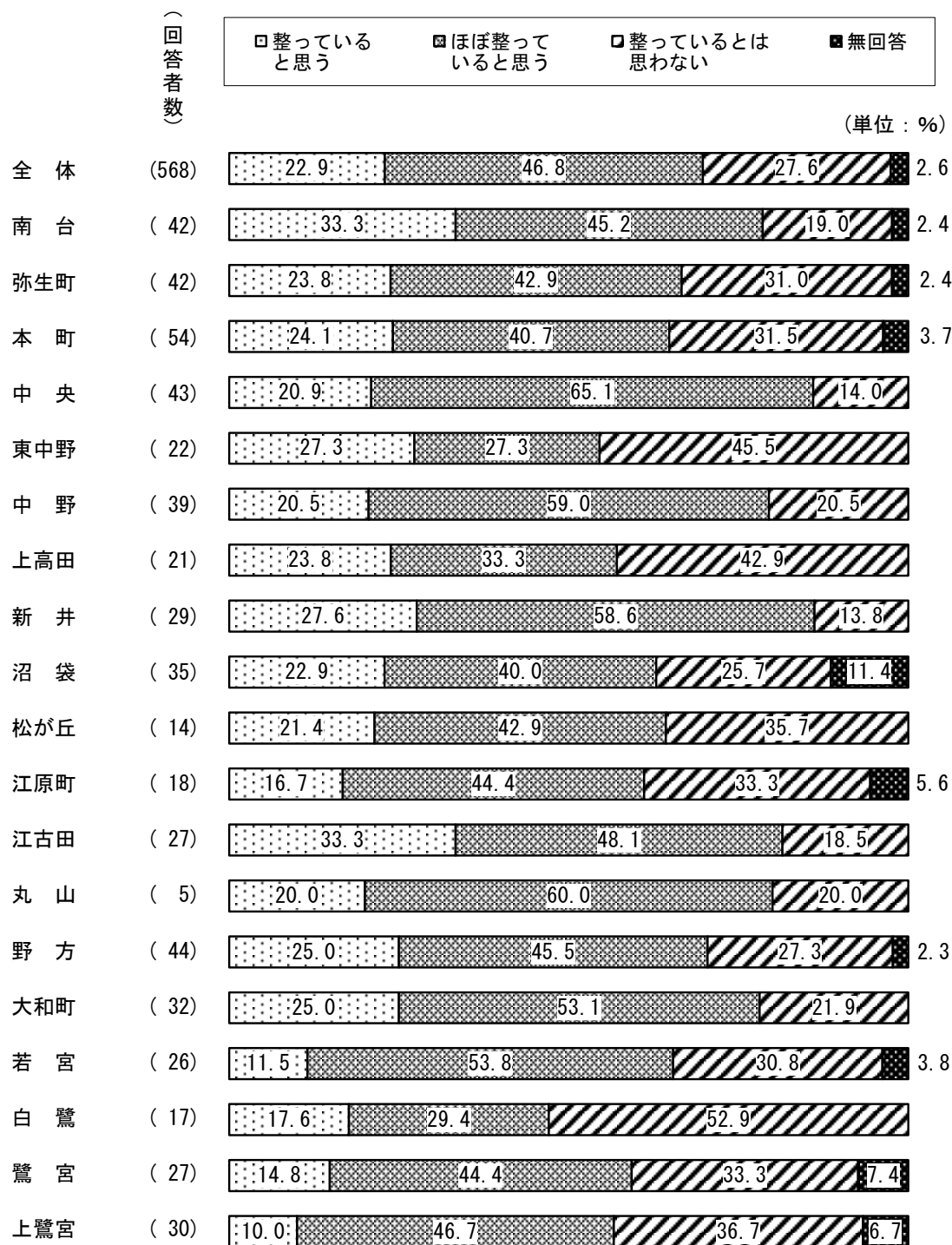
〈図2-39〉性別



〈図2-40〉年齢別



〈図2-41〉居住地域別



(12) 新型インフルエンザについて考えたり、心がけていること

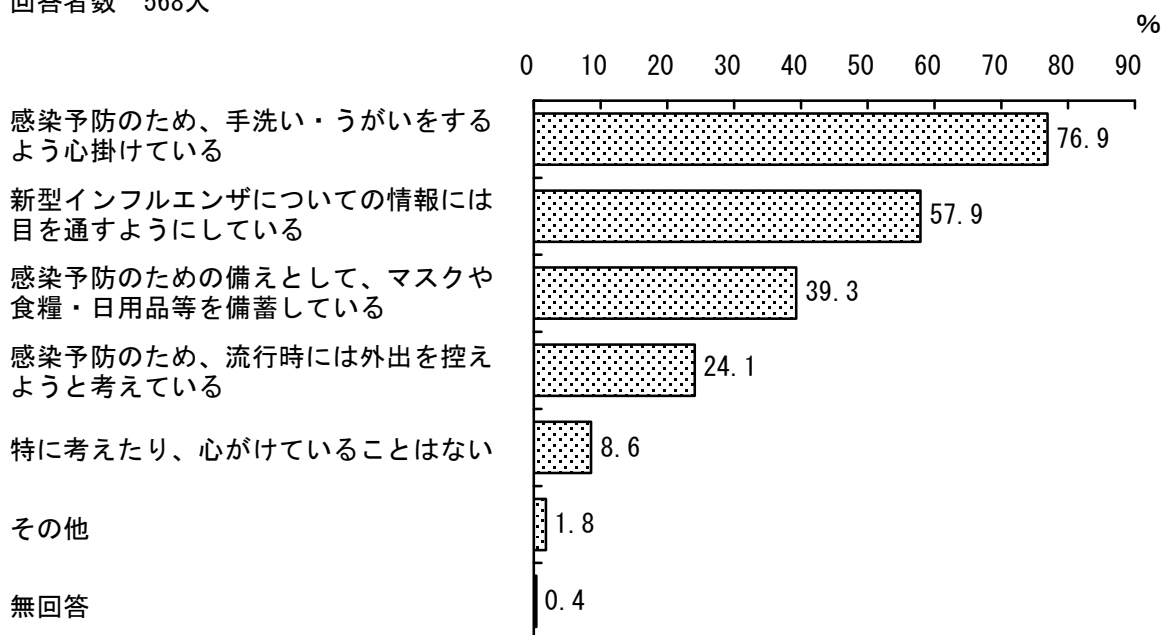
◆「手洗い・うがいをするよう心掛ける」が7割半

(全員の方に)

問 19. あなたが、新型インフルエンザ※について考えたり、心がけていることはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

〈図 2-42〉 全体

回答者数 568人



※新型インフルエンザとは、これまでのインフルエンザとは異なった「人にとって新しい」インフルエンザでおこる感染症で、誰でもがかったことがなく、免疫をもっていないインフルエンザです。この新型インフルエンザが発生し、世界で大流行することが懸念されています。

新型インフルエンザについて考えたり、心がけていることとしては、「感染予防のため、手洗い・うがいをするよう心掛けている」(76.9%)が最も多く、次いで、「新型インフルエンザについての情報には目を通すようにしている」(57.9%)、「感染予防のための備えとして、マスクや食糧・日用品等を備蓄している」(39.3%)、「感染予防のため、流行時には外出を控えようと考えている」(24.1%)の順となっている。また、「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人が8.6%となっている。(図 2-42)

性別に見ると、すべての項目で女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。一方、「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人は男性(13.8%)が女性(4.5%)よ

り 9.3 ポイント高くなっている。(図 2-43)

年齢別に見ると、「感染予防のため手洗い・うがいをするよう心掛けている」と答えた人は 30 歳代で 85.6%と高くなっている。また、「新型インフルエンザについての情報には目を通すようにしている」と答えた人は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、70 歳代以上では 70% 前後となっている。(図 2-44)

職業別に見ると、すべての項目で家事専門の割合が高くなっており、特に「感染予防のために手洗い・うがいをするよう心掛けている」と答えた人は 94.7%となっている。(図 2-45)

世帯構成別に見ると、「新型インフルエンザについての情報には目を通すようにしている」と答えた人は 3 世代世帯（親と子と孫）で 70.9%と高くなっている。一方、「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人は単身世帯（一人暮らし）で 21.0%となっている。

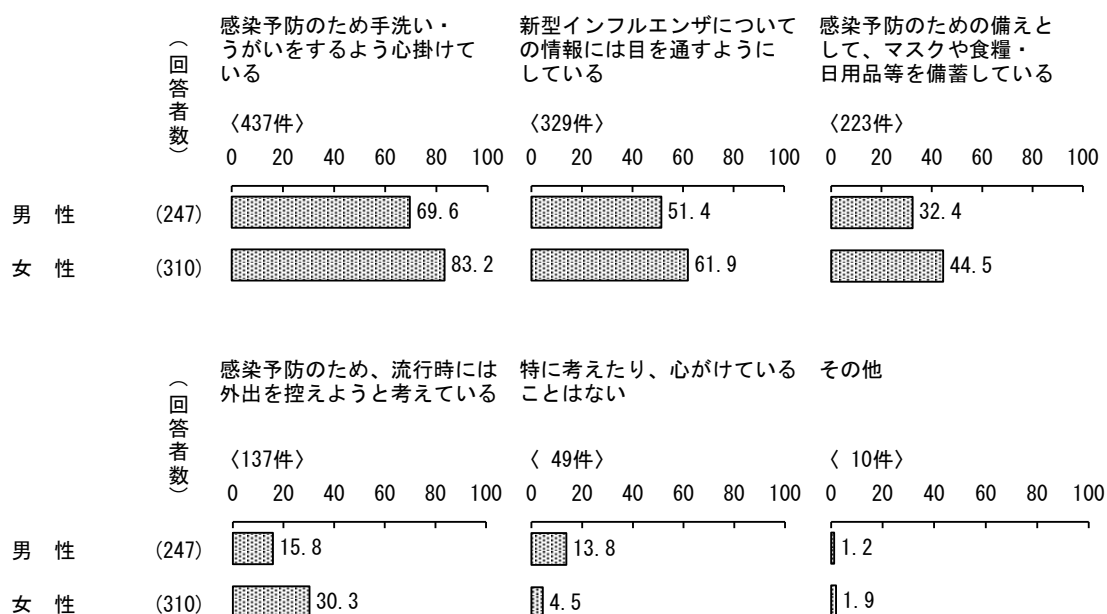
(図 2-46)

住居形態別に見ると、全般的に持ち家（一戸建て）と答えた人の割合が高くなっている。

(図 2-47)

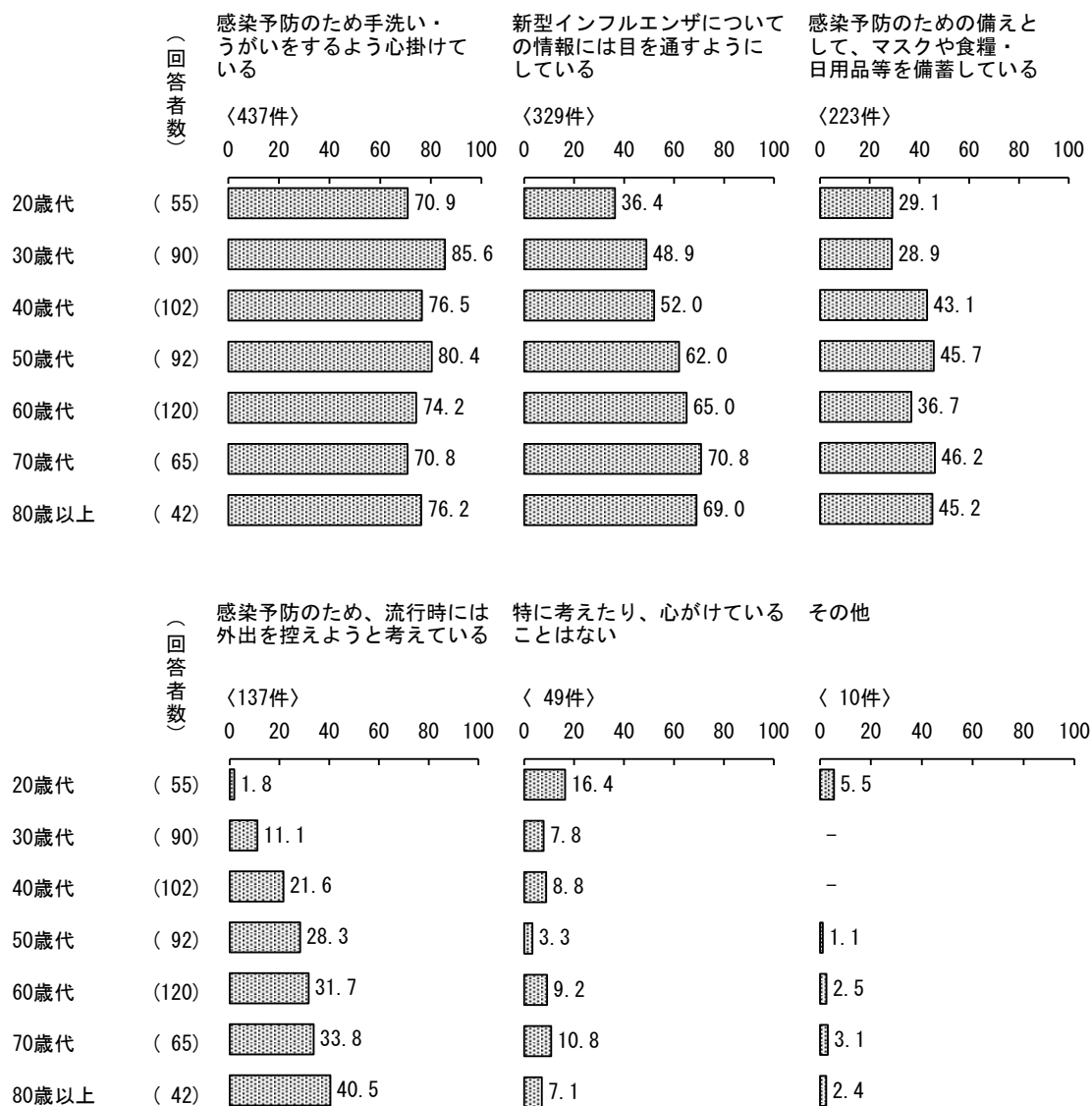
〈図 2-43〉 性別

(単位：%)



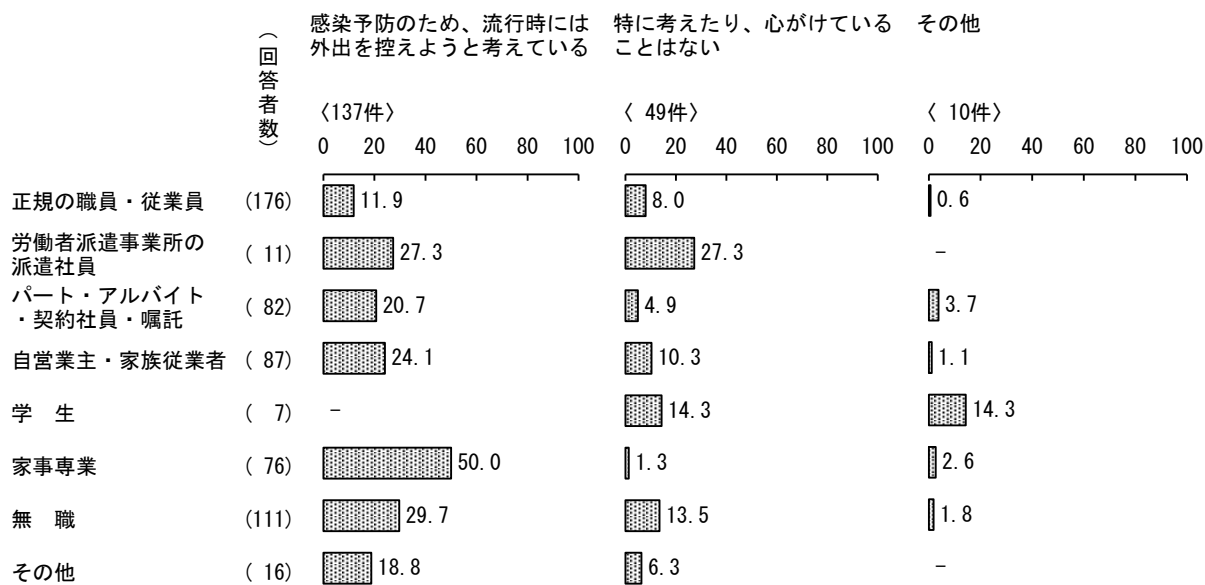
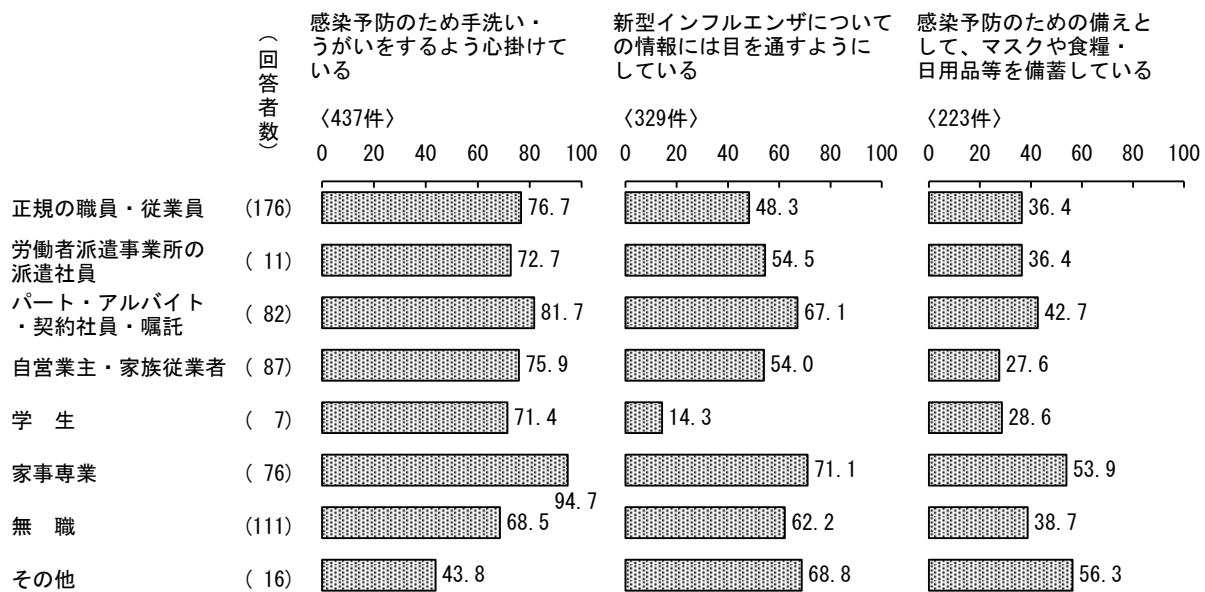
〈図2-44〉年齢別

(単位：%)



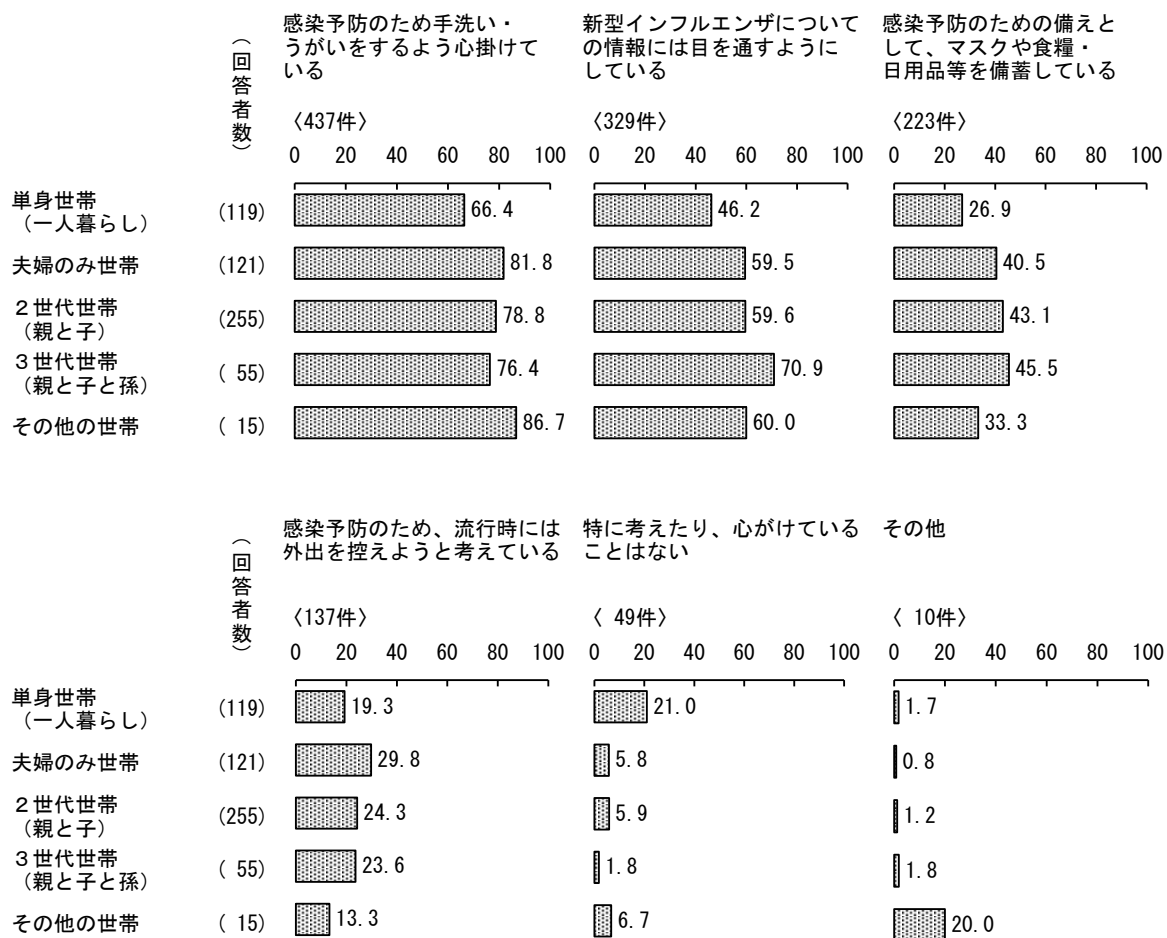
〈図2-45〉職業別

(単位：%)



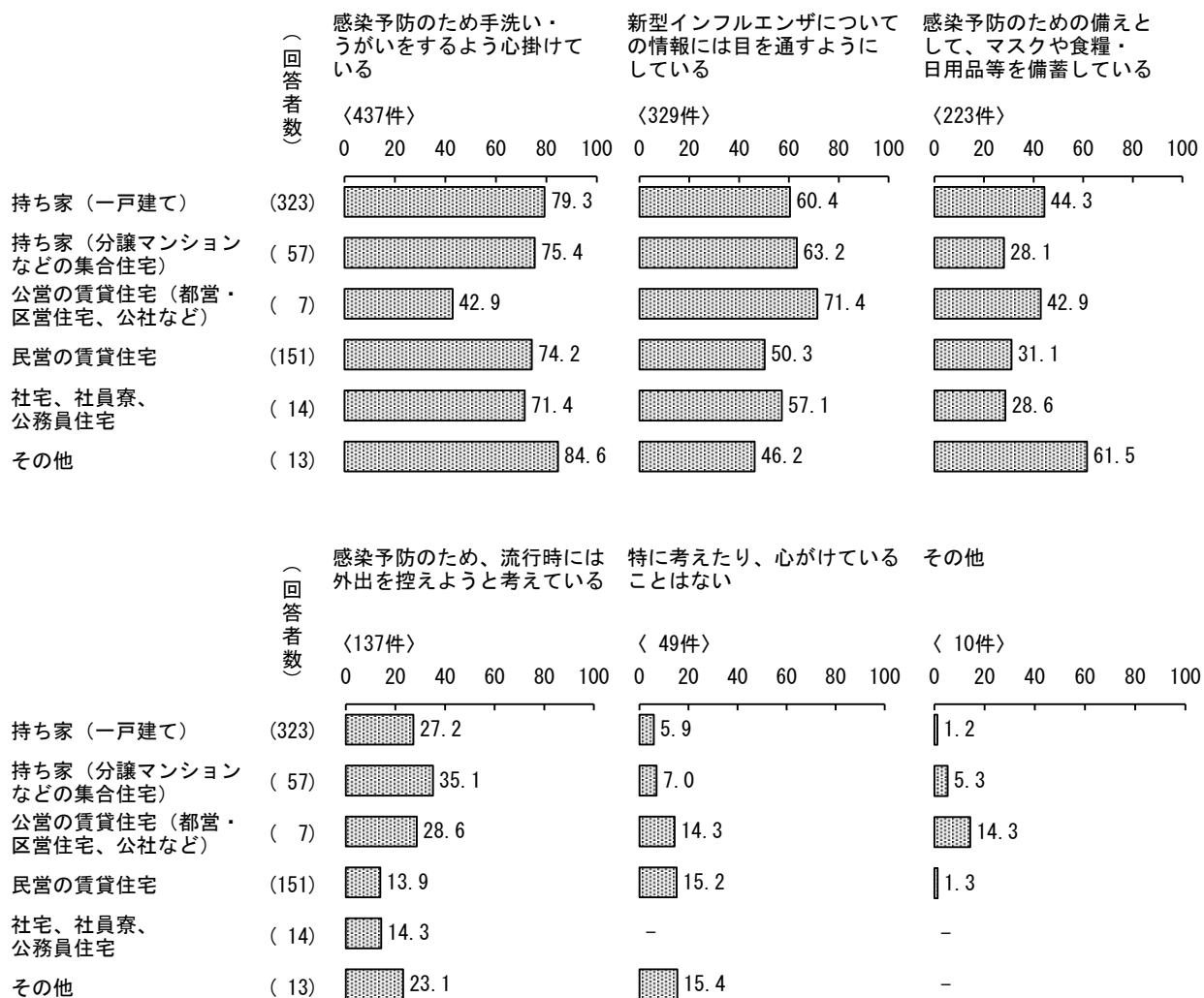
〈図2-46〉世帯構成別

(単位：%)



〈図2-47〉住居形態別

(単位：%)



(13) 栄養成分表示の参考

◆栄養成分の表示を参考にすると答えた人は6割強

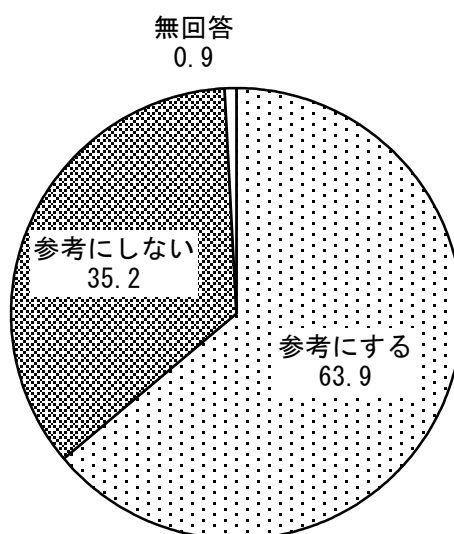
(全員の方に)

問 20. あなたは、食品や調理済の料理を購入する時または外食の時に、栄養成分の表示があれば参考にしますか。(○は1つ)

〈図 2-48〉全体

回答者数 568人

単位：%

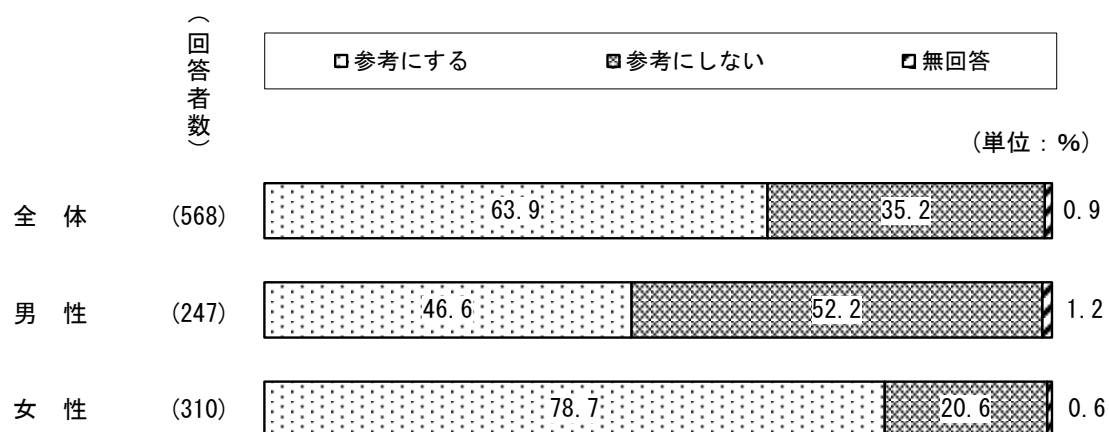


食品や調理済の料理を購入する時や外食の時に、栄養成分の表示を「参考にする」と答えた人が63.9%、「参考にしない」と答えた人は35.2%となっている。(図 2-48)

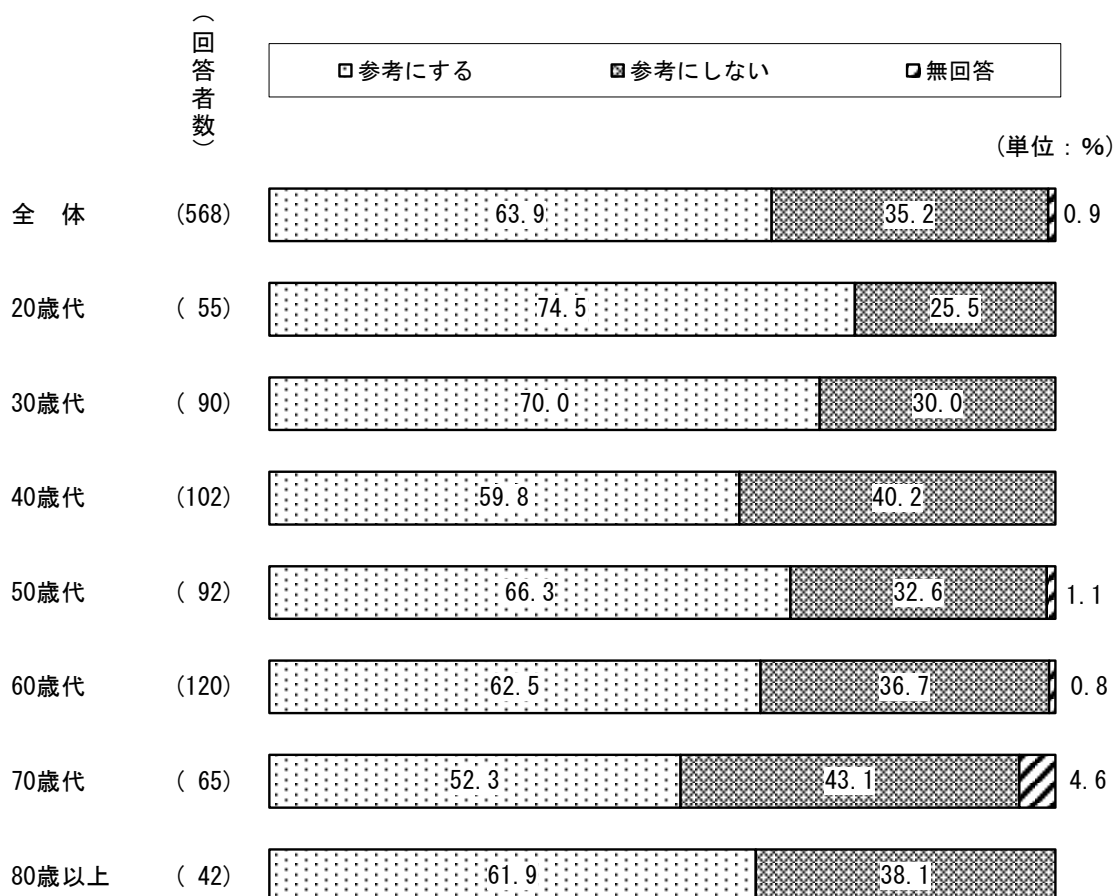
性別に見ると、「参考にする」と答えた人は女性(78.7%)が男性(46.6%)より32.1ポイント高くなっている。(図 2-49)

年齢別に見ると、「参考にする」と答えた人は20~30歳代で70%以上となっている。一方、「参考にしない」と答えた人は70歳代で43.1%となっている。(図 2-50)

〈図2-49〉性別



〈図2-50〉年齢別



(14) 食中毒に関して認識している度合い

◆おおむね理解していると答えた人は6割

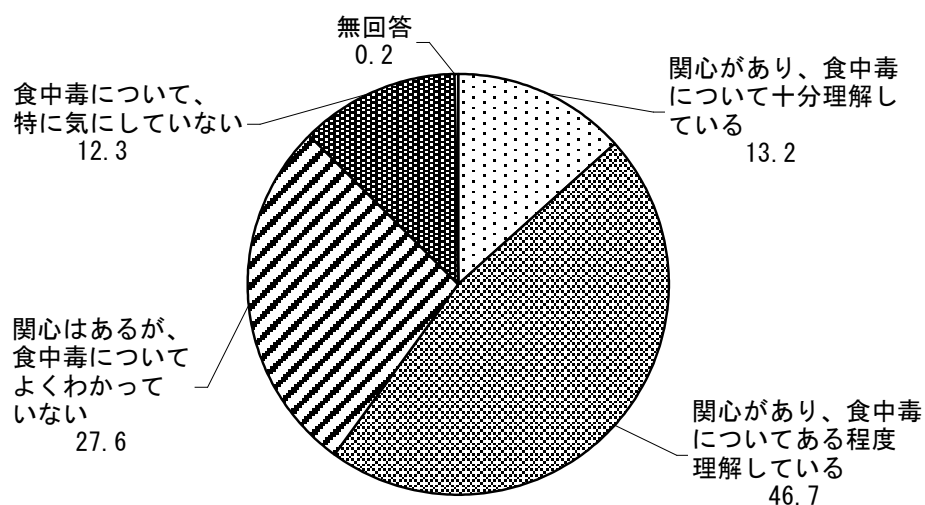
(全員の方に)

問 21. あなたの食中毒に関する認識に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

〈図 2-51〉 全体

回答者数 568人

単位：%



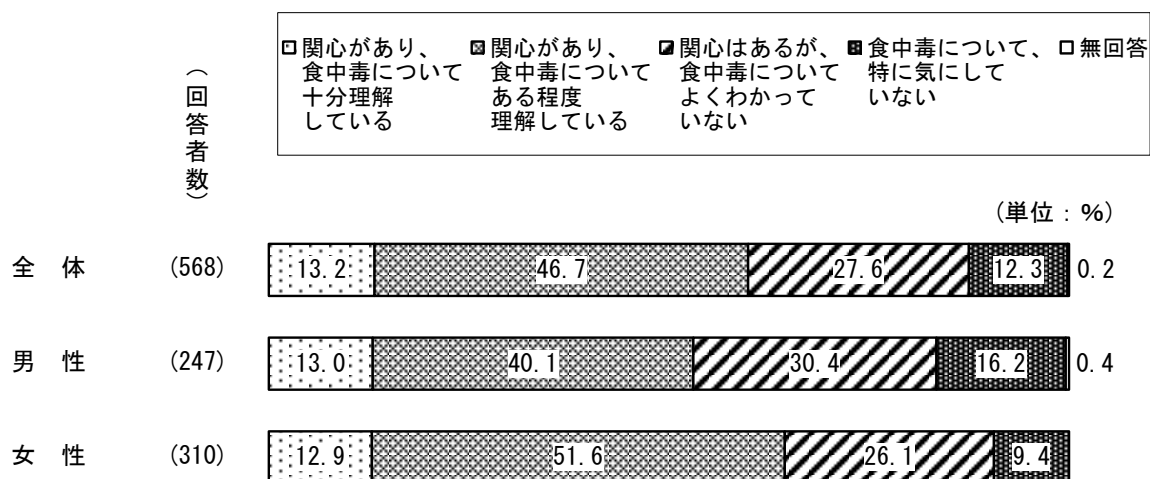
食中毒について、「関心があり、十分理解している」と答えた人は 13.2%、「関心があり、ある程度理解している」と答えた人は 46.7%となっており、この両者を合わせた“おおむね理解している”は 6割となっている。また、「関心はあるが、よくわかっていない」と答えた人は 27.6%、「特に気にしていない」と答えた人は 12.3%となっている。(図 2-51)

性別に見ると、“おおむね理解している”は女性 (64.5%) が男性 (53.0%) より 11.5 ポイント高くなっている。(図 2-52)

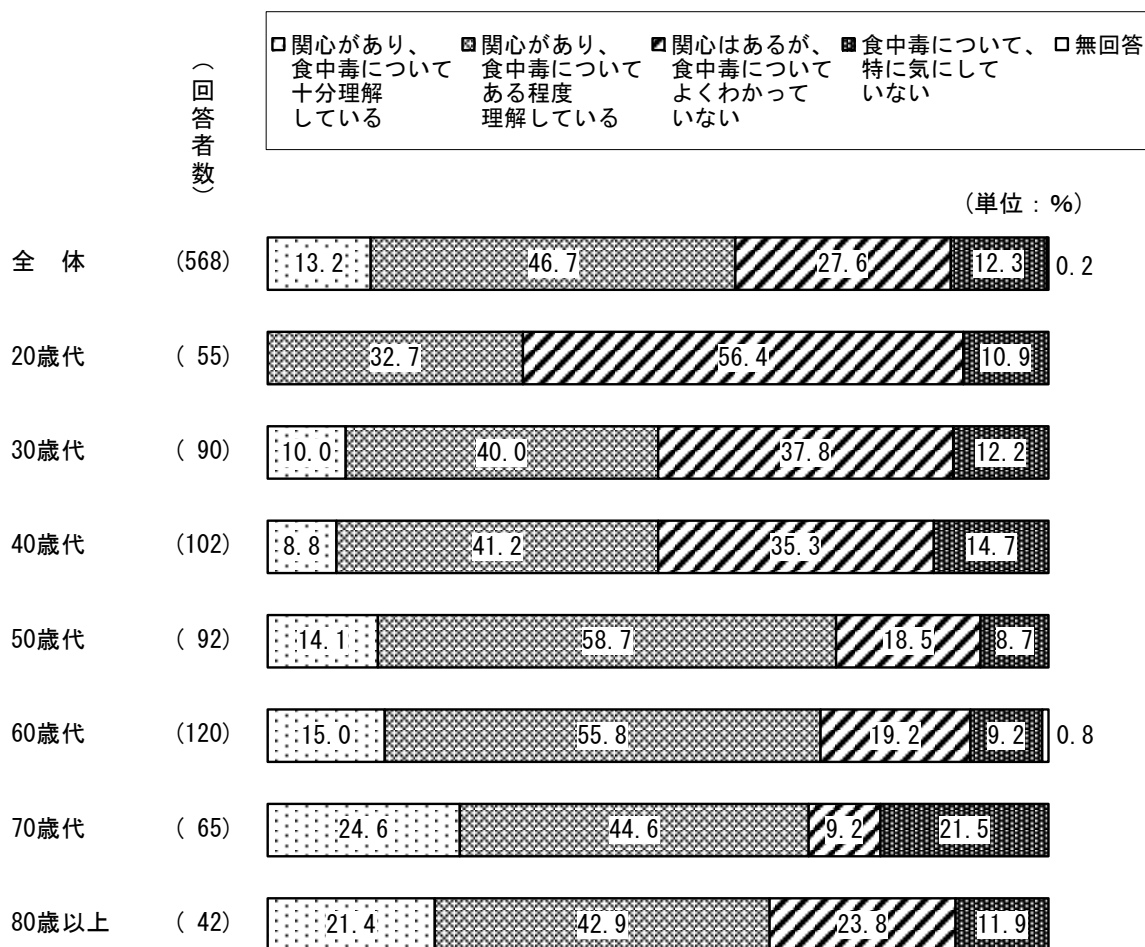
年齢別に見ると、“おおむね理解している”は 50~70 歳代で 70%前後と高くなっている。(図 2-53)

世帯構成別に見ると、「関心はあるが、よくわかっていない」と答えた人は単身世帯 (一人暮らし) で 37.8%と高くなっており、“おおむね理解している”の割合が 48.7%と低くなっている。(図 2-54)

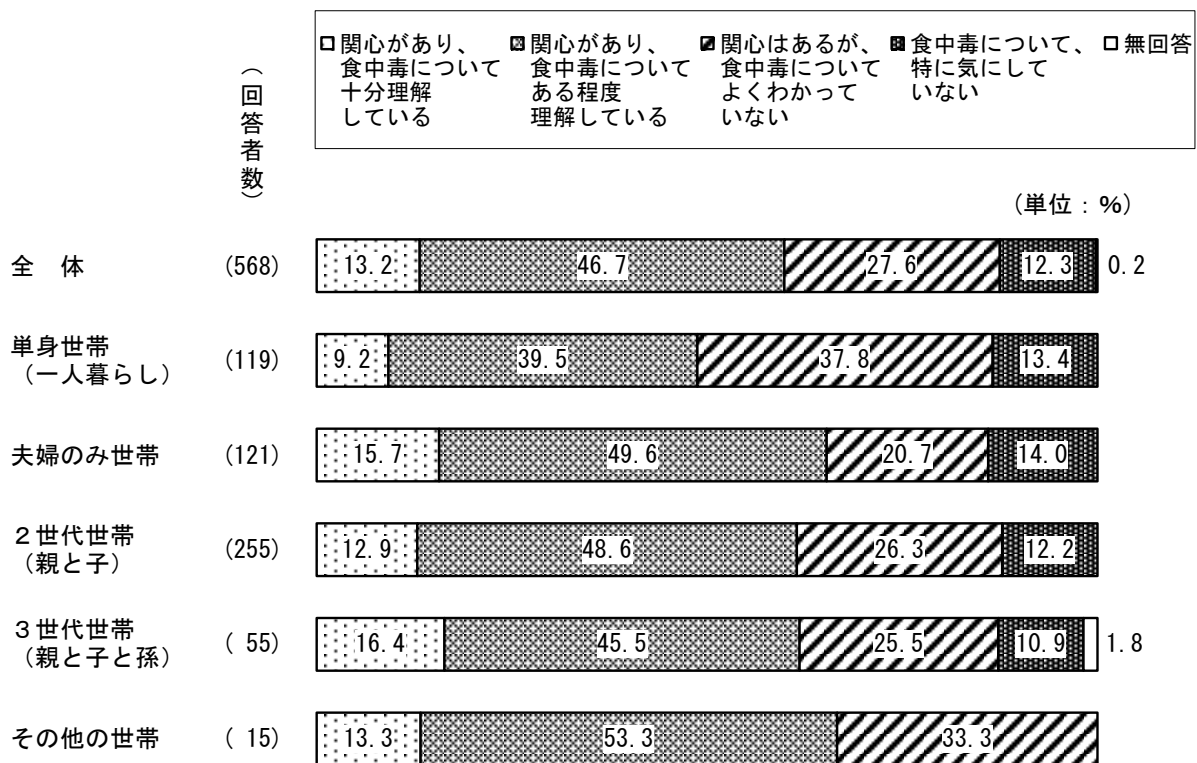
〈図2-52〉性別



〈図2-53〉年齢別



〈図2-54〉世帯構成別



(15) 「うつ病」について抵抗なく相談できるところ

◆「精神科などの専門医療機関」が5割半

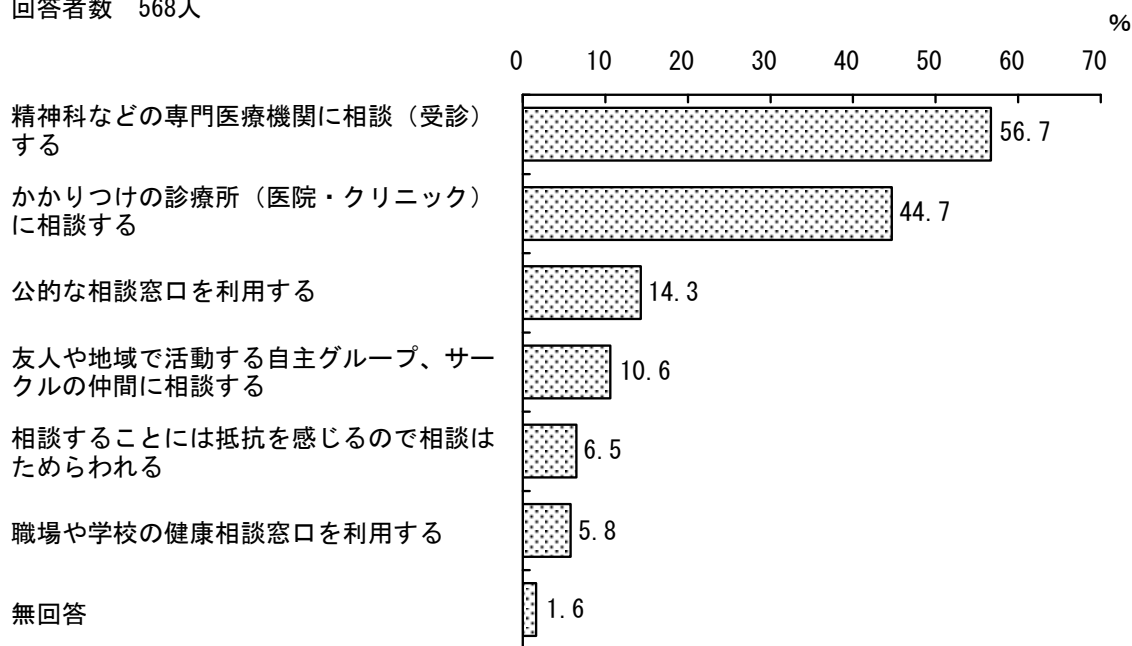
(全員の方に)

問 22. 「うつ病」は誰でもかかる可能性があります。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたが抵抗なく相談できると考えるところはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

〈図 2-55〉 全体

回答者数 568人



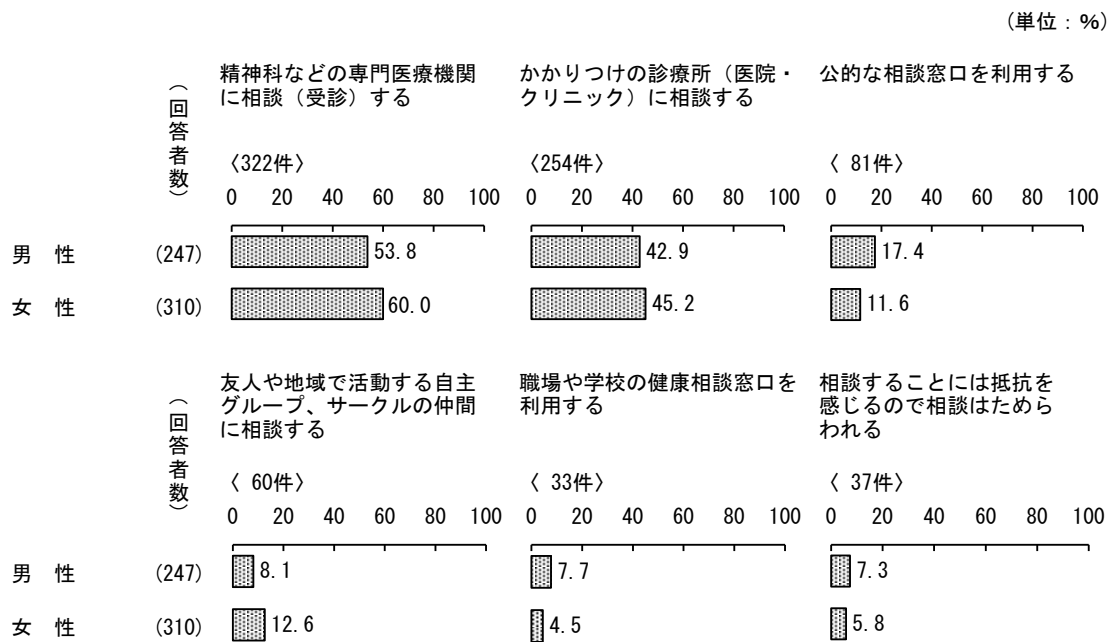
※「うつ病」は適切に対応しないと病気が長引くことも多く、ときには自殺の要因になることもあります。本人や周囲の人が早く症状に気づき、早期に対応することが重要ですが、相談することに抵抗を感じる人が多いとされています。

自分や家族がうつ病になったとき、抵抗なく相談できると考えるところについては、「精神科などの専門医療機関に相談 (受診) する」と答えた人が 56.7%で最も多くなっている。以下、「かかりつけの診療所 (医院・クリニック) に相談する」(44.7%)、「公的な相談窓口を利用する」(14.3%)、「友人や地域で活動する自主グループ、サークルの仲間に相談する」(10.6%)、「相談することには抵抗を感じるので相談はためられる」(6.5%)、「職場や学校の健康相談窓口を利用する」(5.8%) の順になっている。(図 2-55)

性別に見ると、男女とも「精神科などの専門医療機関に相談（受診）する」と答えた人が最も高くなっている。また、女性（60.0%）が男性（53.8%）より6.2ポイント高くなっている。（図2-56）

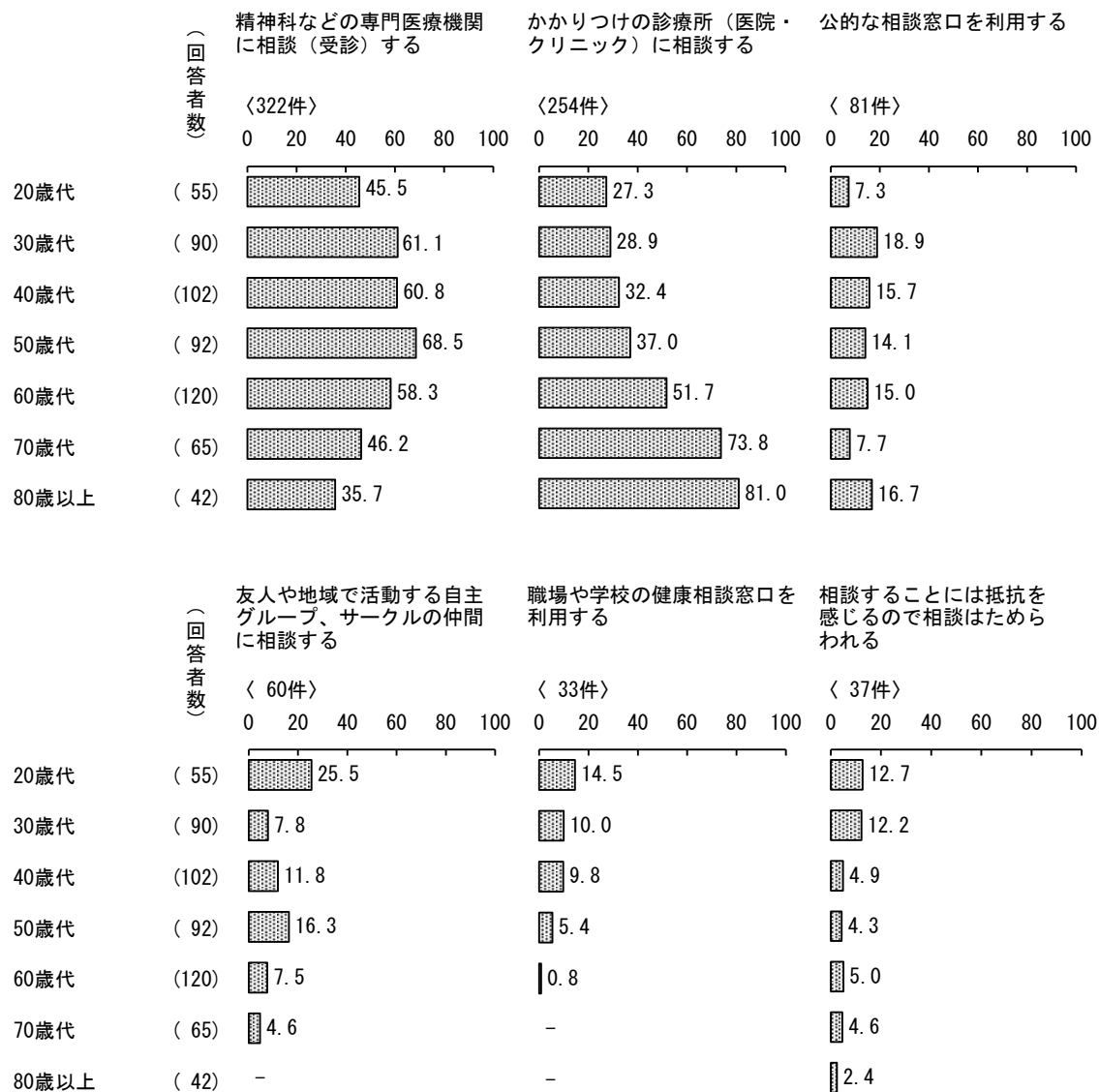
年齢別に見ると、「精神科などの専門医療機関に相談（受診）する」と答えた人は50歳代で68.5%、「かかりつけの診療所（医院・クリニック）に相談する」と答えた人は70歳代以上で70%以上となっている。また、「相談することには抵抗を感じるので相談はためられる」と答えた人は20～30歳代で12%以上となっている。（図2-57）

〈図2-56〉性別



〈図2-57〉年齢別

(単位：%)



(16) 国民健康保険制度のしくみを認識している度合い

◆おおむね知っていると答えた人は4割強

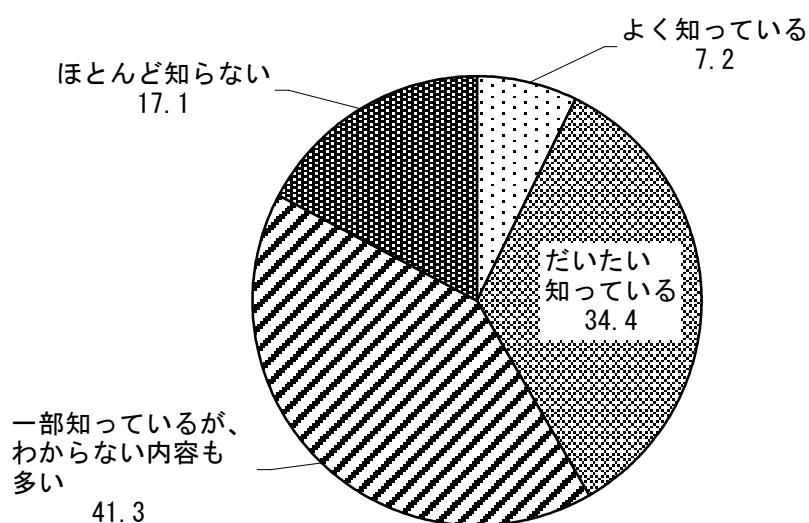
(国民健康保険に加入している方で、20歳から74歳の方に)

問23. あなたは、国民健康保険のしくみ(手続き・保険料・給付内容など)について、どの程度ご存じですか(○は1つ)

〈図2-58〉全体

回答者数 346人

単位：%

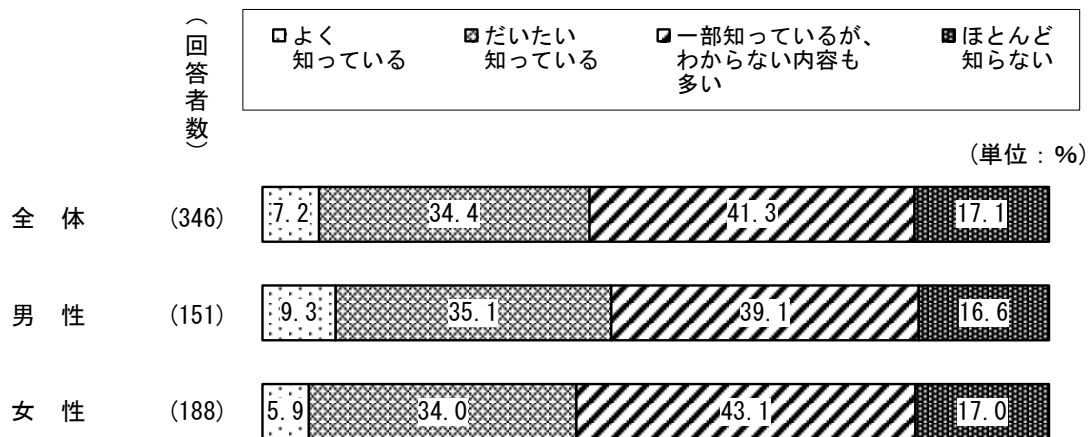


国民健康保険に加入している20歳～74歳の人に、国民健康保険制度のしくみについてどの程度知っているか聞いたところ、「よく知っている」と答えた人が7.2%、「だいたい知っている」と答えた人が34.4%で、この両者を合わせた“おおむね知っている”が4割強となっている。また、「一部知っているが、わからない内容も多い」と答えた人は41.3%、「ほとんど知らない」と答えた人は17.1%となっている。(図2-58)

性別に見ると、“おおむね知っている”は男性(44.4%)が女性(39.9%)より4.5ポイント高くなっている。(図2-59)

年齢別に見ると、“おおむね知っている”は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、60歳代で53.7%、70～74歳で62.5%となっている。一方、「一部知っているが、わからない内容も多い」と答えた人は30歳代(62.5%)で、「ほとんど知らない」と答えた人は20歳代(35.6%)、40歳代(28.1%)で、それぞれ高くなっている。(図2-60)

〈図2-59〉性別



〈図2-60〉年齢別

